

**豊島区地域保健福祉計画改定のための
区民意識・意向調査
中間報告**

令和4年12月

豊島区

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査の種類	2
3 調査方法と回収状況	2
4 調査項目	2
5 調査結果を見る上での注意事項	3
第2章 調査結果の詳細	5
第1部 単純集計編	7
第2部 クロス集計編	35
(1) ひきこもり	36
(2) 災害	41
(3) 成年後見制度	49
(4) 最終報告書に掲載予定のクロス集計設問一覧	54

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、高齢者や障害者を含む誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるしくみの一層の充実を図るため、保健・医療・福祉の各分野にわたり、総合的・体系的に施策・事業を盛り込んだ「豊島区地域保健福祉計画」の改定に反映させるための基礎資料として活用することを目的に実施しました。

2 調査の種類

調査名	調査対象
豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査	豊島区内在住の18歳以上の区民3,000名

3 調査方法と回収状況

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査票：「日本語版」の他に、豊島区在住外国人の約半数を占める中国籍の方を対象に「中国語版」の調査票を、その他の外国籍の方を対象に「やさしい日本語版」での調査票を作成し送付しました。

抽出方法：年齢別人口割合に応じた層化抽出法*1

*1 層化抽出法とは、母集団（全体）をある特性に基づいていくつかの「層」に分け、その「層」と同じ比率を標本に投影させ、各層から抽出単位又は調査対象を抽出する方法。

調査期間：令和4年10月18日（火）～令和4年11月1日（火）

〈回収状況〉

調査名		発送数	回収数	回収率
豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査		3,000件	1,200件	40.0%
(参考)	日本国籍	2,734件	1,160件	42.4%
	外国籍	266件	40件	15.0%

4 調査項目

調査名	調査項目
豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査	1. 暮らしの状況 2. 住民同士の支え合いや助け合い 3. 地域での活動 4. 福祉のまちづくり 5. 福祉・健康についての情報提供や相談 6. 基本属性

5 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答数です。
- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100%にならない場合があります。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100%を超える場合があります。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。
- ・経年比較として掲載したものは、豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査のうち、前回調査とは「平成28年度の調査」、前々回調査とは「平成25年度の調査」を示します。
- ・クロス集計で用いる地区区分は、以下の8区分としました。

	8区分	住所
東部	東部地区1	駒込1～7丁目、巣鴨1・2丁目、南大塚1～3丁目
	東部地区2	巣鴨3～5丁目、西巣鴨1～4丁目、北大塚1・2丁目
中央	中央地区1	北大塚3丁目、上池袋1～4丁目、東池袋1～5丁目
	中央地区2	南池袋1～4丁目、雑司が谷1～3丁目、高田1～3丁目、目白1・2丁目
	中央地区3	西池袋1～5丁目、池袋3丁目、目白3～5丁目
	中央地区4	池袋1・2・4丁目、池袋本町1～4丁目
西部	西部地区1	長崎1丁目、千早1～4丁目、要町1～3丁目、高松1～3丁目、千川1・2丁目
	西部地区2	南長崎1～6丁目、長崎2～6丁目

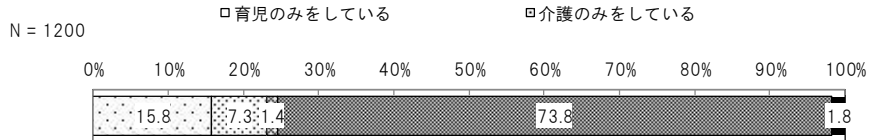
第2章 調査結果の詳細

第1部 単純集計編

◆◆くらしの状況についてうかがいます◆◆

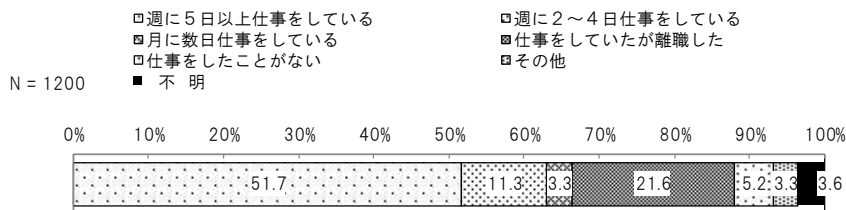
問1 育児や介護をしていますか。

育児や介護について、73.8%の人が「どちらもしない」と回答しています。



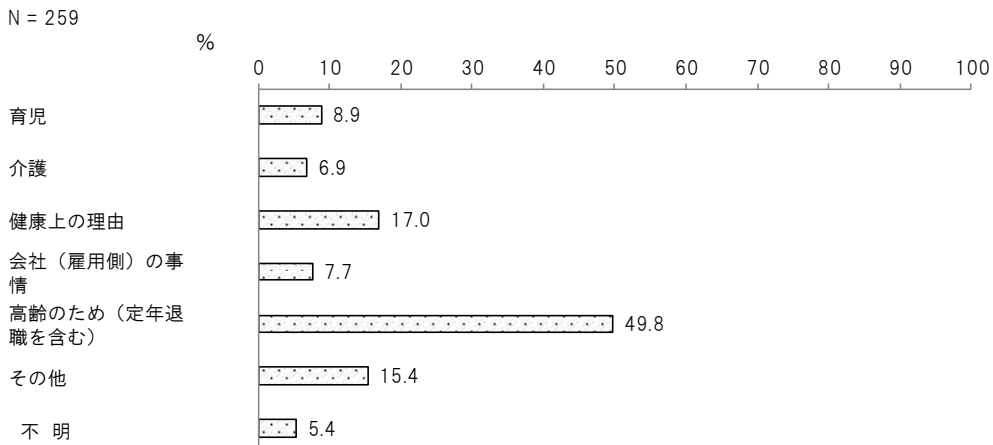
問2 収入を得る仕事をしていますか。

収入を得る仕事について、51.7%の人が「週に5日以上仕事をしている」と回答しています。



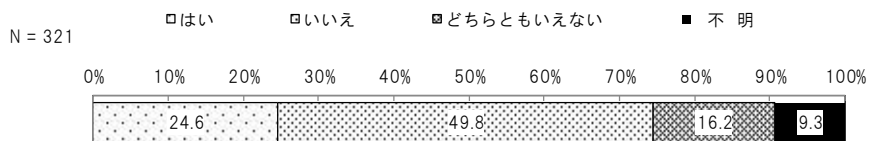
問2-1 離職の原因はなんですか。

離職の原因は、「高齢のため（定年退職を含む）」との回答が49.8%と最も多く、次いで「健康上の理由」（17.0%）、「その他」（15.4%）と続いています。



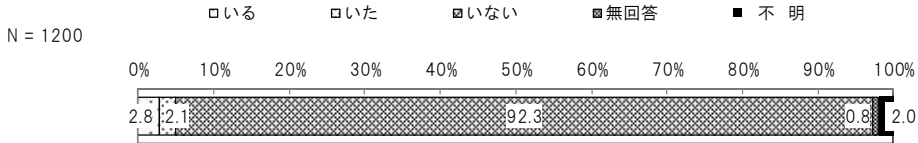
問2-2 今後、仕事に就きたいと思いませんか。

今後の就労意欲について、49.8%の人が「いいえ」と回答しています。



問3 あなたの世帯に、ひきこもり状態にある(あった)方はいますか。

ひきこもり状態にある(あった)方について、92.3%の人が回答した方の世帯に「いない」と回答しています。

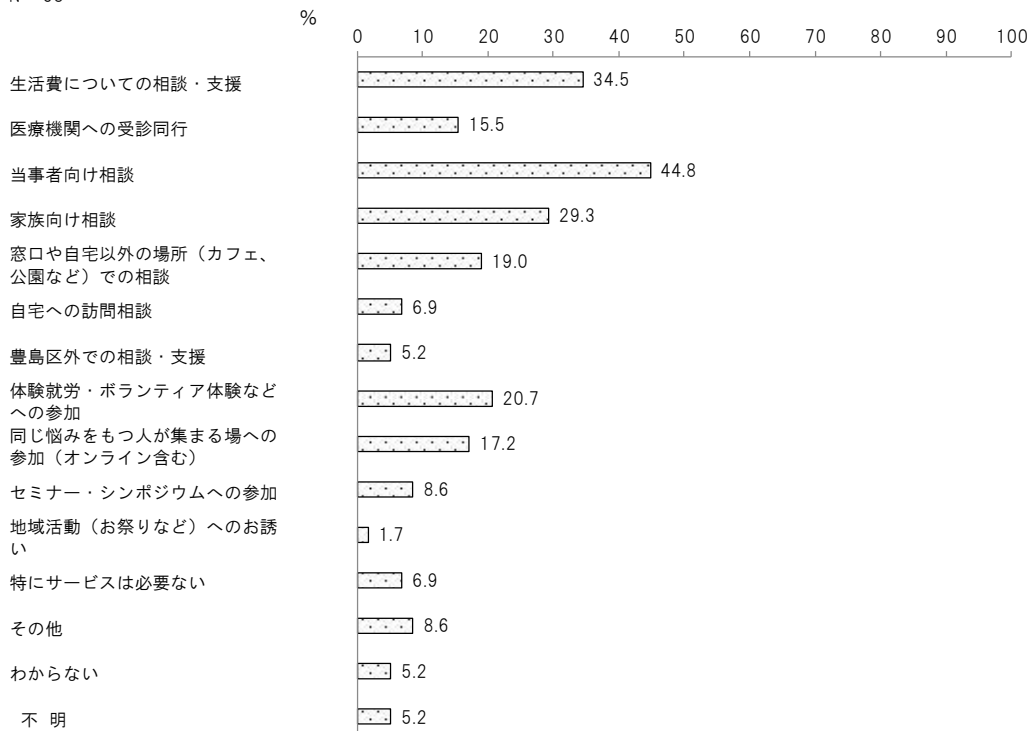


問3-1 ひきこもり状態にある方について、どのようなサービスを受けたいと思いますか。

過去ひきこもり状態にあった方については、どのようなサービスを受けたかったか、お答えください。

ひきこもり状態にある方について受けたい(受けたかった)サービスは、「当事者向け相談」との回答が44.8%と最も多く、次いで「生活費についての相談・支援」(34.5%)、「家族向け相談」(29.3%)、と続いています。

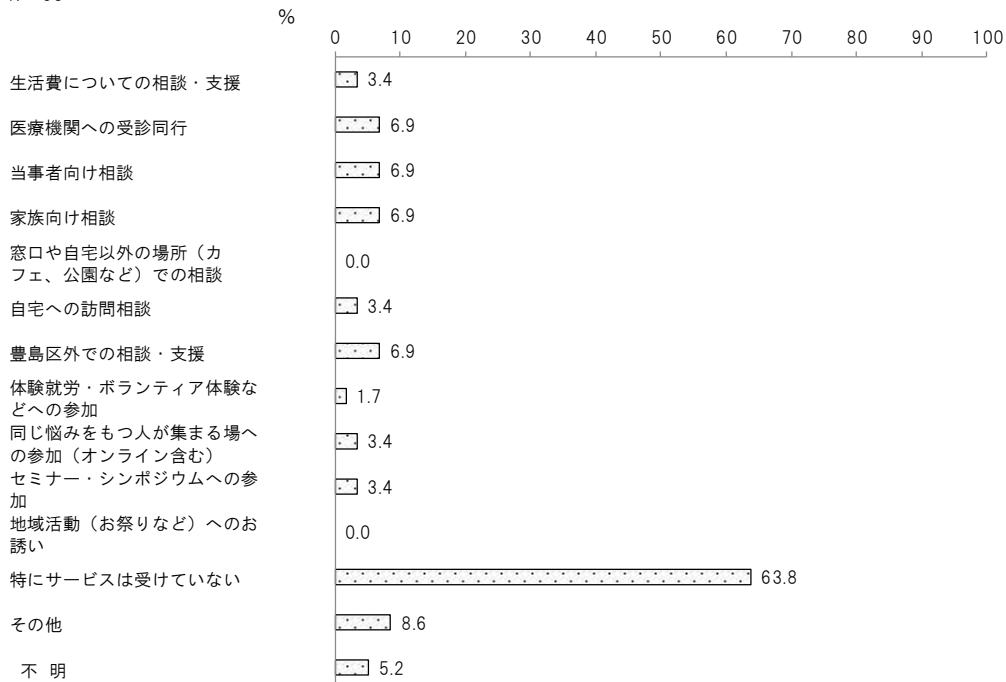
N = 58



問3-2 ひきこもり状態にある方について、現在、どのようなサービスを受けていますか。
過去ひきこもり状態にあった方については、どのようなサービスを受けていたか、お答えください。

ひきこもり状態にある方が現在受けている（受けていた）サービスは、「特にサービスは受けていない」との回答が63.8%と最も多くなっています。

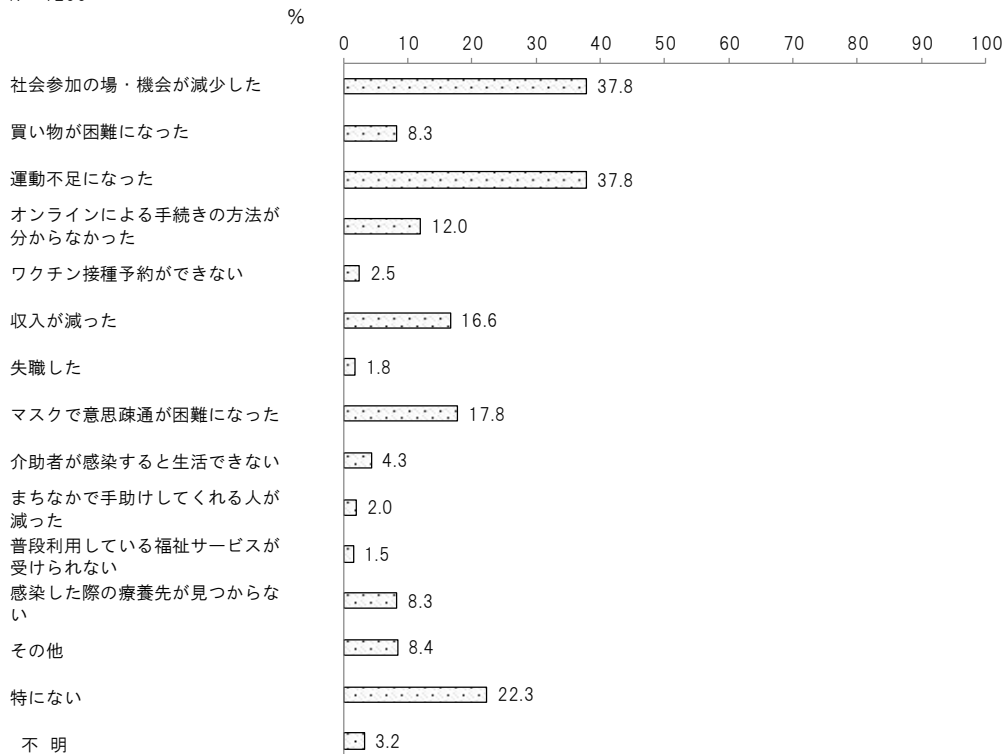
N = 58



問4 新型コロナウイルス感染症が拡大する中、新たな困りごととしてどのようなものがありますか。

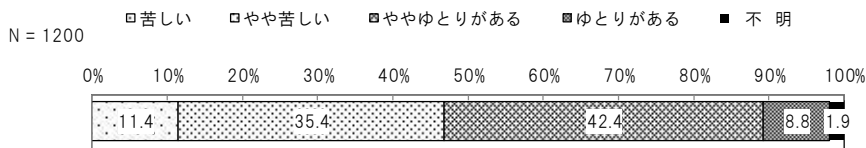
新型コロナウイルス感染症が拡大する中での新たな困りごととしては、「社会参加の場・機会が減少した」と「運動不足になった」の回答が37.8%と最も多くなっています。

N = 1200



問5 現在のくらしの状況をどう感じていますか。

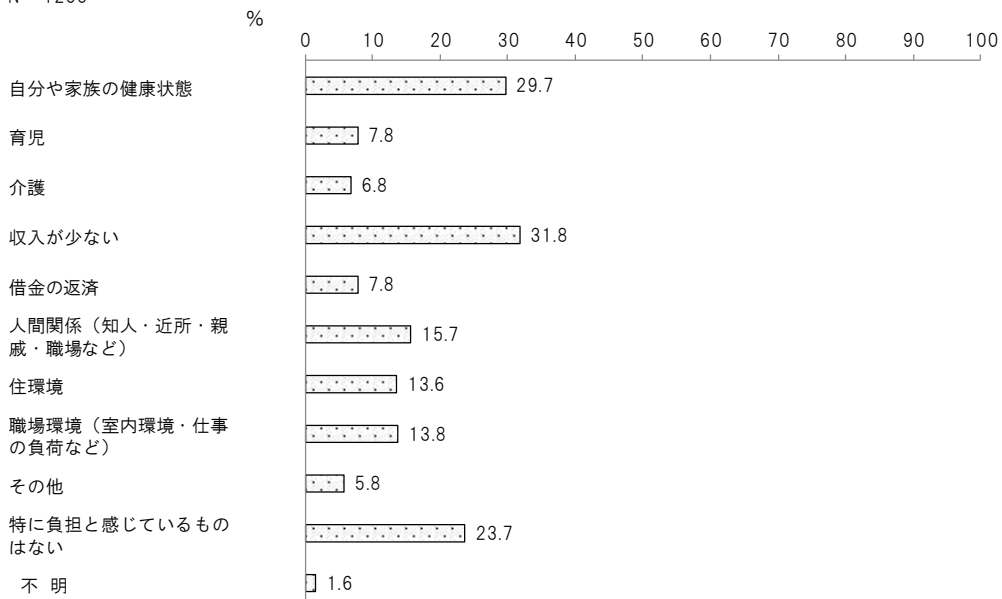
現在のくらしの状況について、42.4%の人が「ややゆとりがある」と回答しており、「ゆとりがある」(8.8%)と合わせた《ゆとりあり》と感じている人は5割を超えています。一方「苦しい」(11.4%)と「やや苦しい」(35.4%)を合わせた《苦しい》と感じている人は4割台半ばとなっています。



問6 くらしの中で負担が大きいと感じているものは何ですか。

くらしの中で負担が大きいと感じているものは、「収入が少ない」との回答が31.8%と最も多く、次いで「自分や家族の健康状態」(29.7%)と続いています。一方「特に負担と感じているものはない」との回答は23.7%となっています。

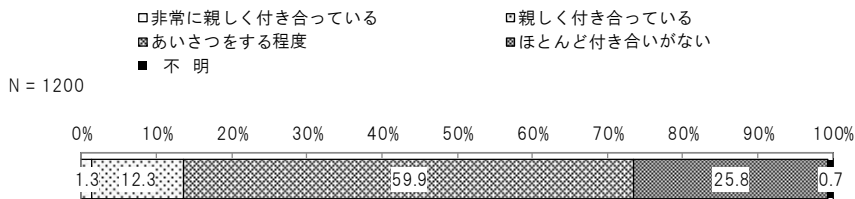
N = 1200



◆◆住民同士の支え合いや助け合いについてうかがいます◆◆

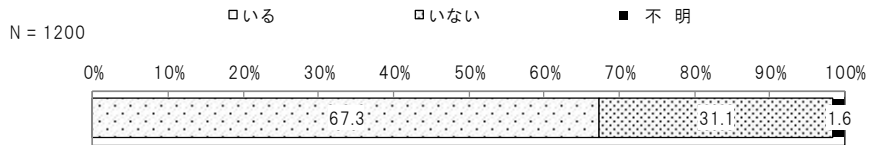
問7 日頃、ご近所の方とどの程度お付き合いをしていますか。

近所の人とは「あいさつをする程度」と回答した人が59.9%を占めています。



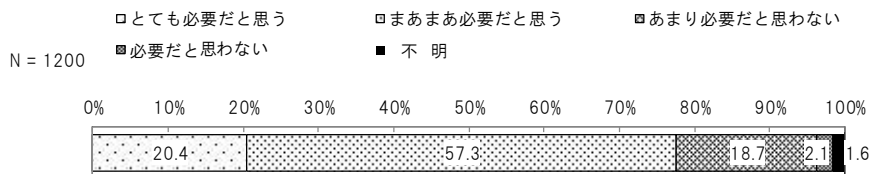
問8 身近に相談できる人はいますか。

身近に相談できる人は、67.3%の人が「いる」と回答しています。一方「いない」との回答は31.1%となっています。



問9 地域で起こるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりすることは必要だと思いますか。

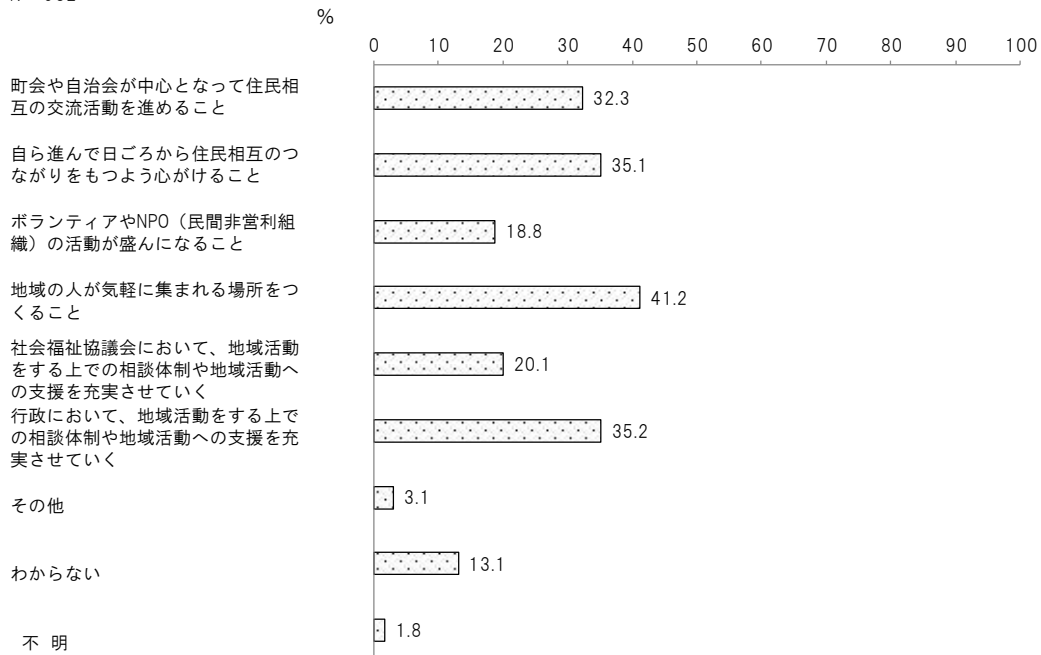
住民同士の支え合いや助け合いについては、57.3%の人が「まあまあ必要だと思う」と回答しており、「とても必要だと思う」(20.4%)と合わせた《必要だと思う》層は約8割となっています。



問9-1 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、どのような取組みが特に必要だと思いますか。

住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするために必要な取組みとしては、「地域の人が気軽に集まれる場所をつくること」をあげる人が41.2%と最も多く、次いで「行政において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく」(35.2%)、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつよう心がけること」(35.1%)と続いています。

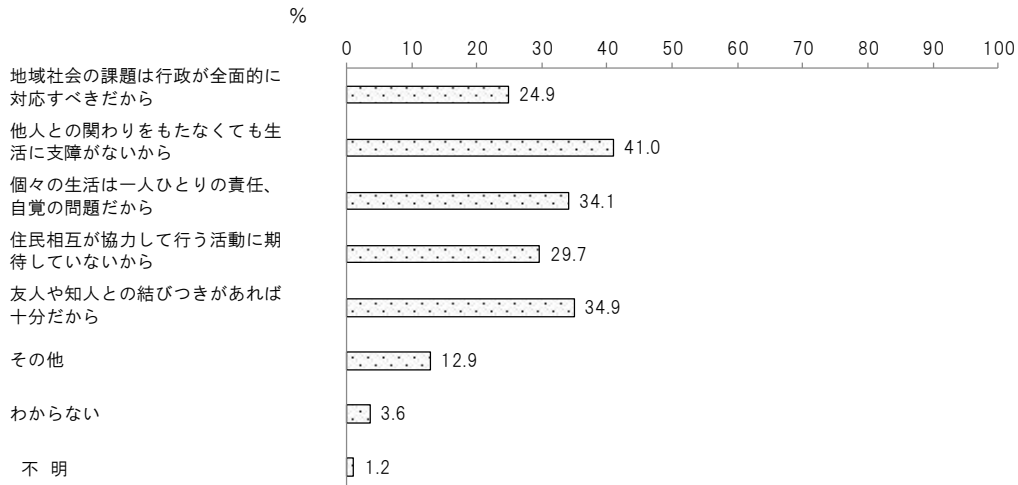
N = 932



問9-2 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思うのはなぜですか。

住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思う理由としては、「他人との関わりをもたなくても生活に支障がないから」をあげる人が41.0%と最も多く、次いで「友人や知人との結びつきがあれば十分だから」(34.9%)、「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」(34.1%)と続いています。

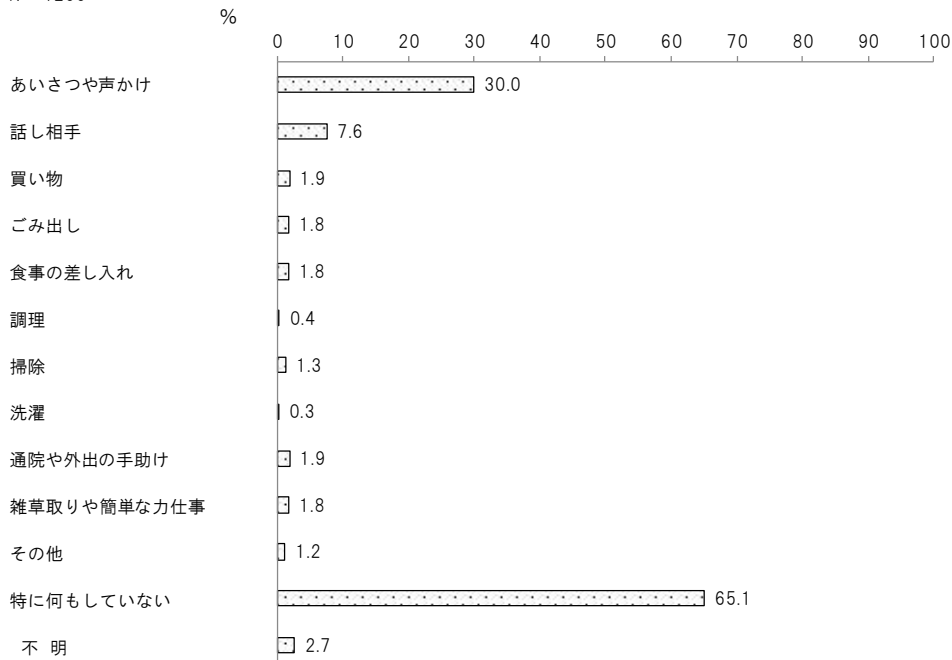
N = 249



問10 高齢者や障害者、妊婦、育児中、介護中、外国籍の方など、近所にお住まいで生活に困りごとを抱えている方に対して、何か手助けしていることはありますか。

近隣の高齢者等の家庭に対して手助けしていることについては、「あいさつや声かけ」をあげる人が30.0%と最も多く、次いで「話し相手」(7.6%)と続いています。一方、「特に何もしていない」との回答は65.1%となっています。

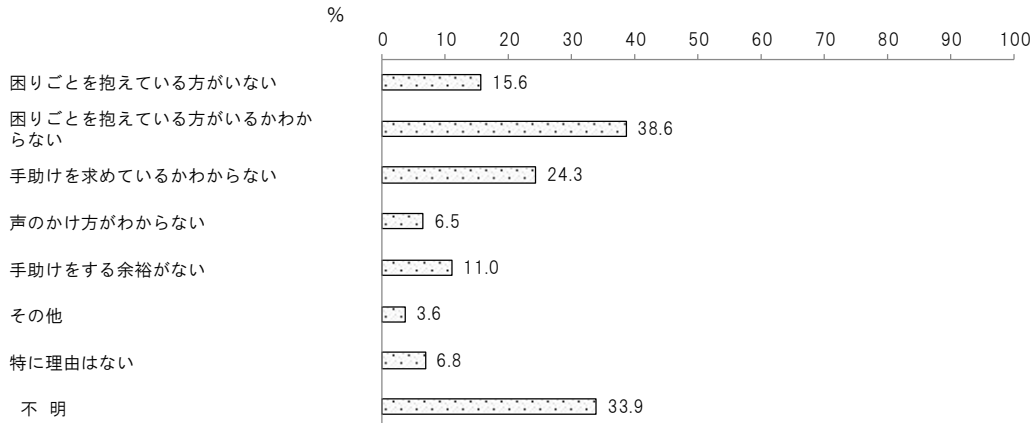
N = 1200



問10-1 特に何もしていない理由は何ですか。

特に手助けしていない理由としては、「困りごとを抱えている方がいるかわからない」をあげる人が38.6%と最も多く、次いで「手助けを求めているかわからない」(24.3%)、「困りごとを抱えている方がいない」(15.6%)と続いています。

N = 781

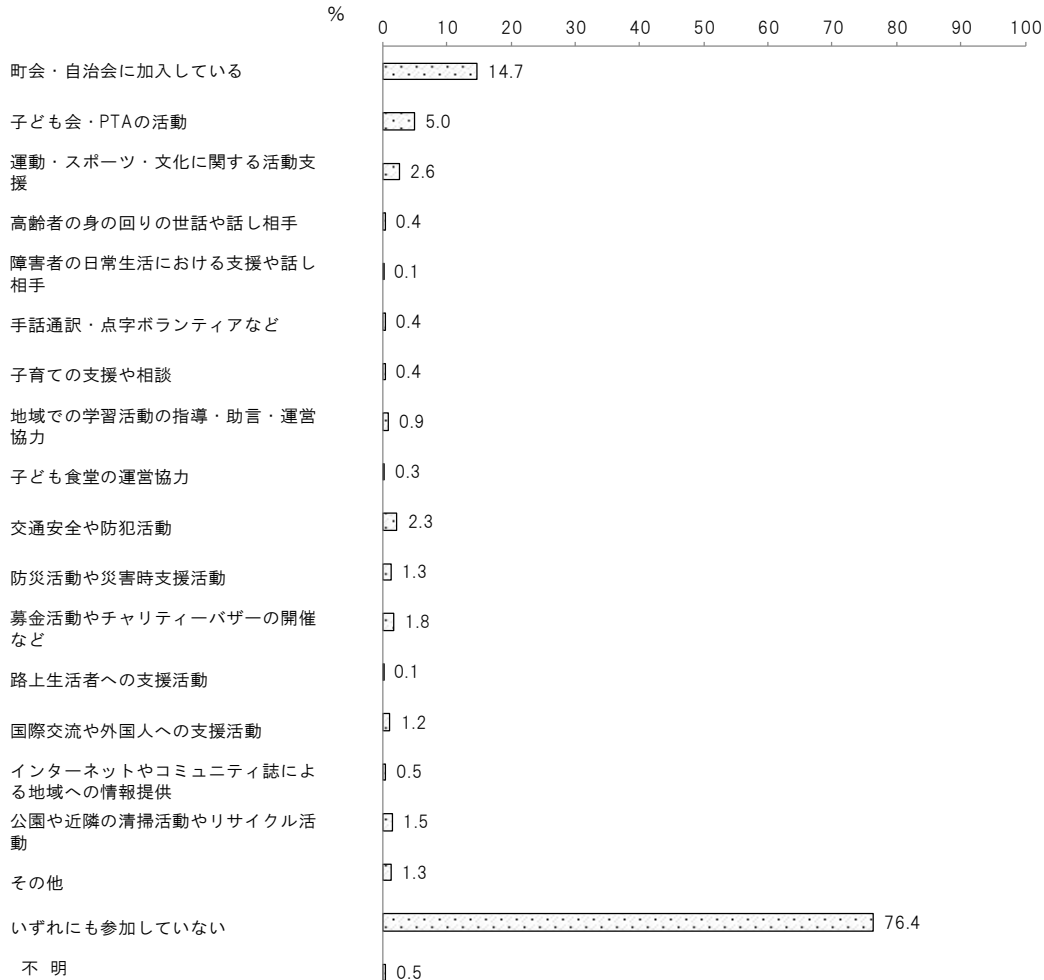


◇◆地域での活動についてうかがいます◆◇

問11 過去1年くらいの間に、地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。

地域活動への参加経験については、「町会・自治会に加入している」をあげる人が14.7%と最も多く、次いで「子ども会・PTAの活動」(5.0%)と続いています。一方で、「いずれにも参加していない」との回答は76.4%となっています。

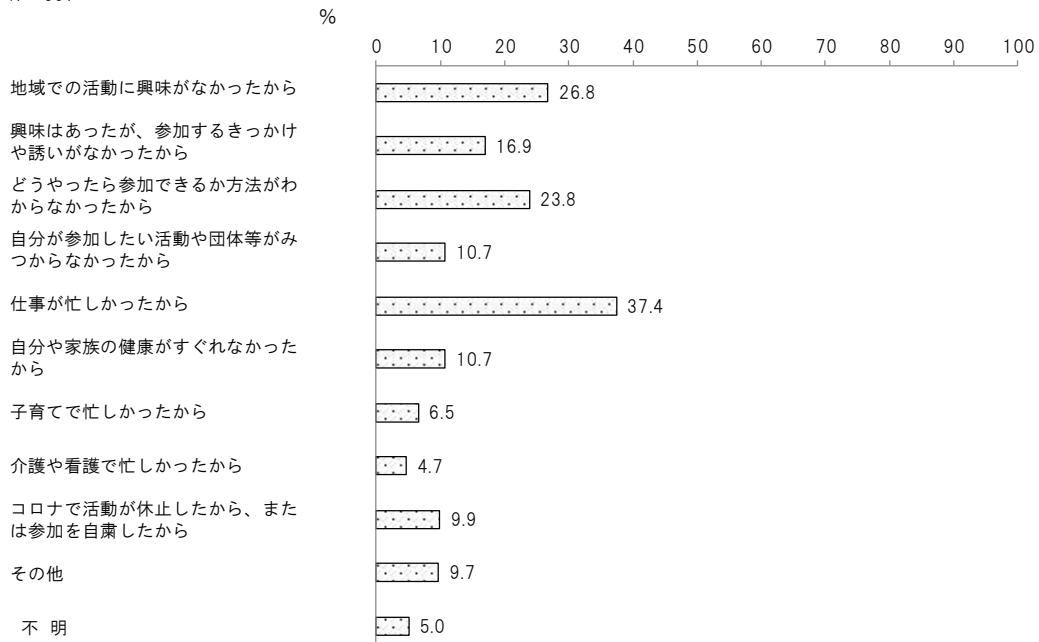
N = 1200



問11-1 参加しなかった主な理由は、次のうちどれにあてはまりますか。

地域活動・ボランティア活動に参加しなかった理由としては、「仕事が忙しかったから」との回答が37.4%と最も多く、次いで「地域での活動に興味になかったから」(26.8%)、「どうやったら参加できるか方法がわからなかったから」(23.8%)と続いています。

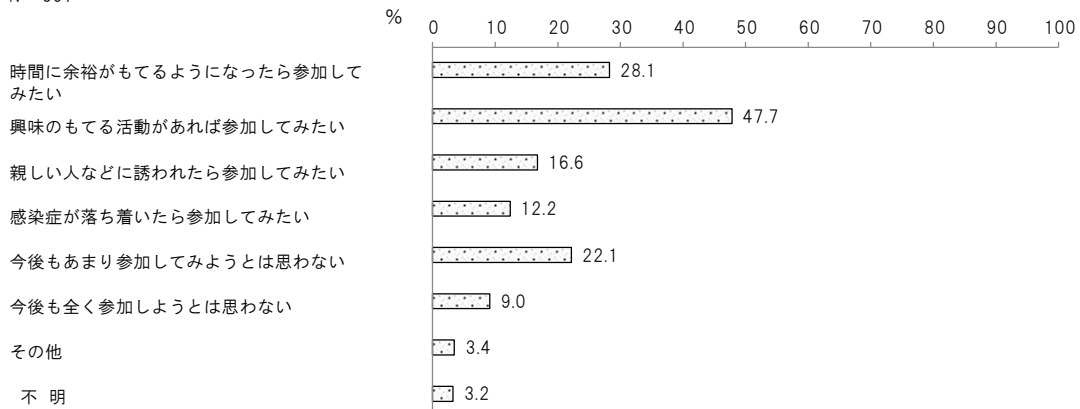
N = 597



問11-2 今後参加したいと思いますか。

地域活動・ボランティア活動に参加しなかった人に対して、今後の参加意向を尋ねたところ、「興味のある活動があれば参加してみたい」をあげる人が47.7%と最も多く、次いで「時間に余裕が持てるようになったら参加してみたい」(28.1%)と続いています。一方で、「今後もあまり参加してみようとは思わない」との回答は22.1%となっています。

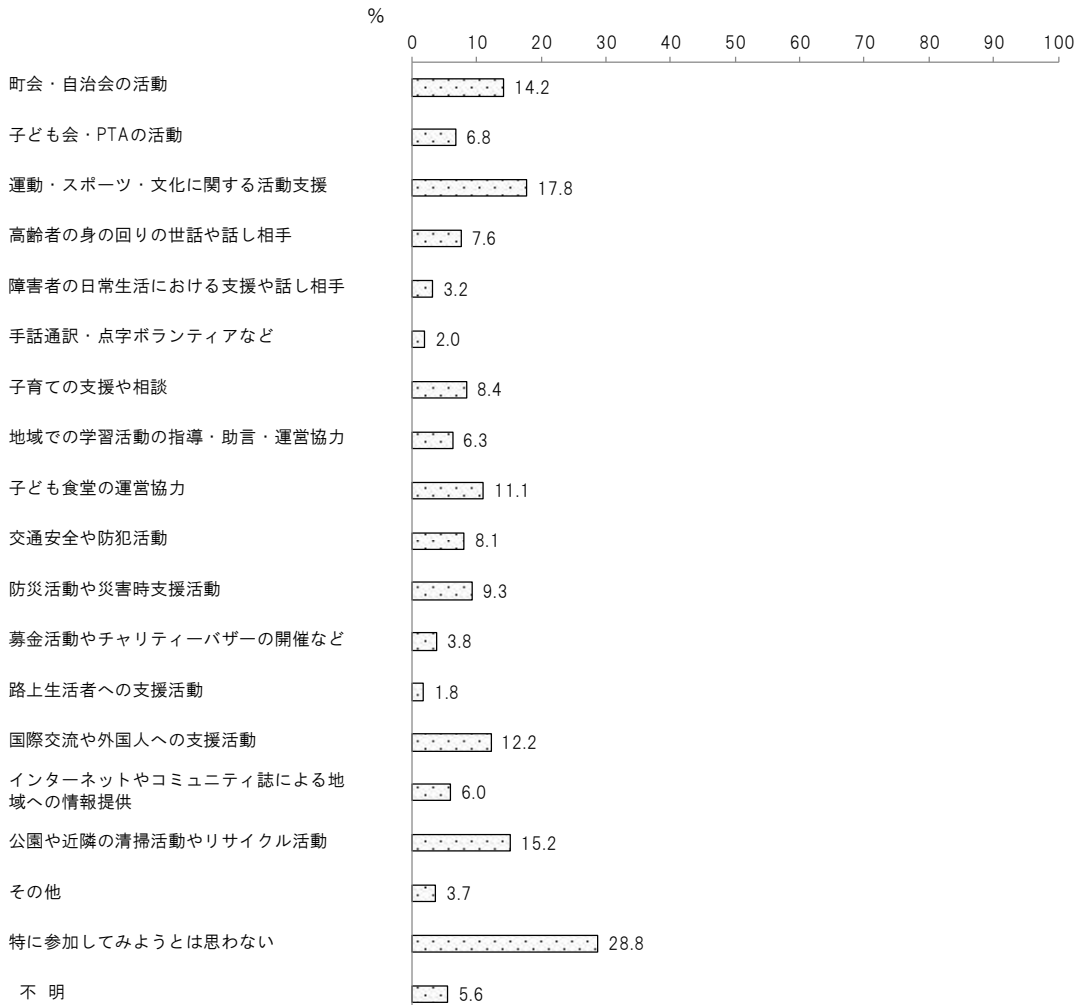
N = 597



問12 今後どのような地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。

今後、参加したい地域活動・ボランティア活動について、「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」をあげる人が17.8%と最も多く、次いで「公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動」(15.2%)、「町会・自治会の活動」(14.2%)と続いています。

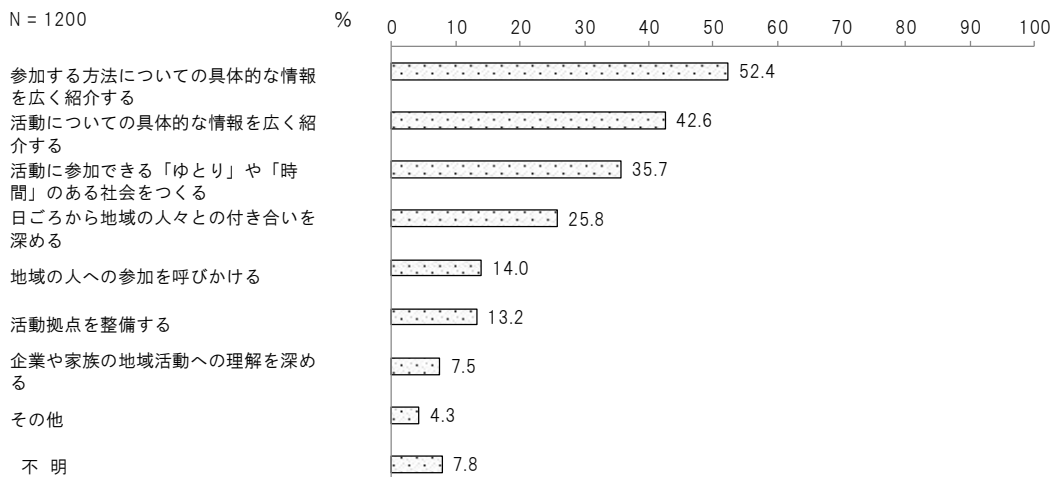
N = 1200



問13 あなたは、お住まいの地域の活動に、より多くの人が参加できるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

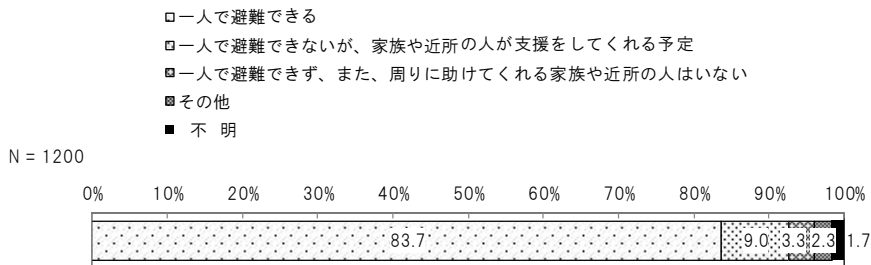
地域の活動に、より多くの人が参加できるようにするために必要だと思うことは、「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」との回答が52.4%と最も多く、次いで「活動についての具体的な情報を広く紹介する」(42.6%)、「活動に参加できる「ゆとり」や「時間」のある社会をつくる」(35.7%)と続いています。

N = 1200



問14 あなたは、災害が発生した時に一人で避難できますか。

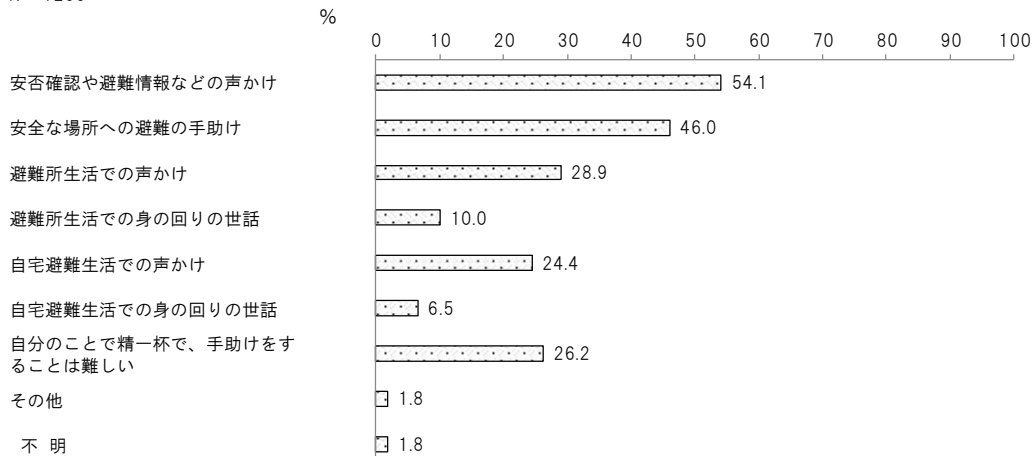
災害発生時の避難について、83.7%の人が「一人で避難できる」と回答しています。



問15 あなたは、災害時において、ご近所にお住まいの支援を必要とする人に対して、どのような手助けや対応ができると思いますか。

災害時に支援を必要とする人に対する手助けや対応としては、「安否確認や避難情報などの声かけ」との回答が54.1%と最も多く、次いで「安全な場所への避難の手助け」(46.0%)、「避難所生活での声かけ」(28.9%)と続いています。

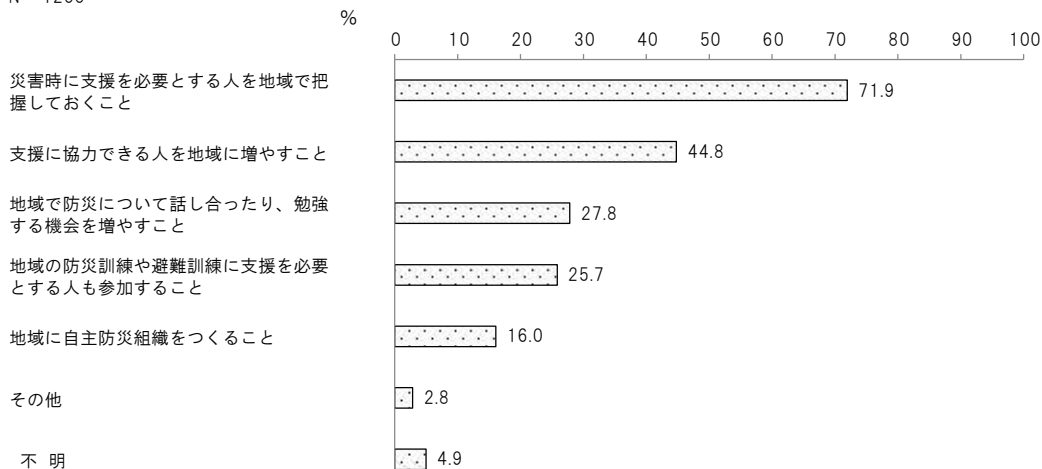
N = 1200



問16 災害時に支援を必要とする人への支援策として、地域でどのような備えが必要だと思いますか。

災害時に支援を必要とする人に対する地域の備えとしては、「災害時に支援を必要とする人を地域で把握しておくこと」との回答が71.9%と最も多く、次いで「支援に協力できる人を地域に増やすこと」(44.8%)、「地域で防災について話し合ったり、勉強する機会を増やすこと」(27.8%)と続いています。

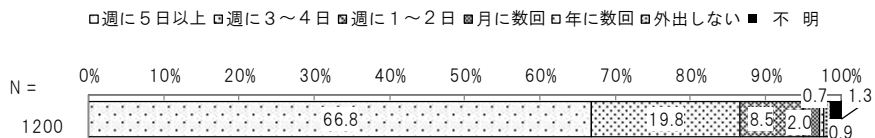
N = 1200



◆◆福祉のまちづくりについてうかがいます◆◆

問17 あなたは、日常どのくらい外出していますか。

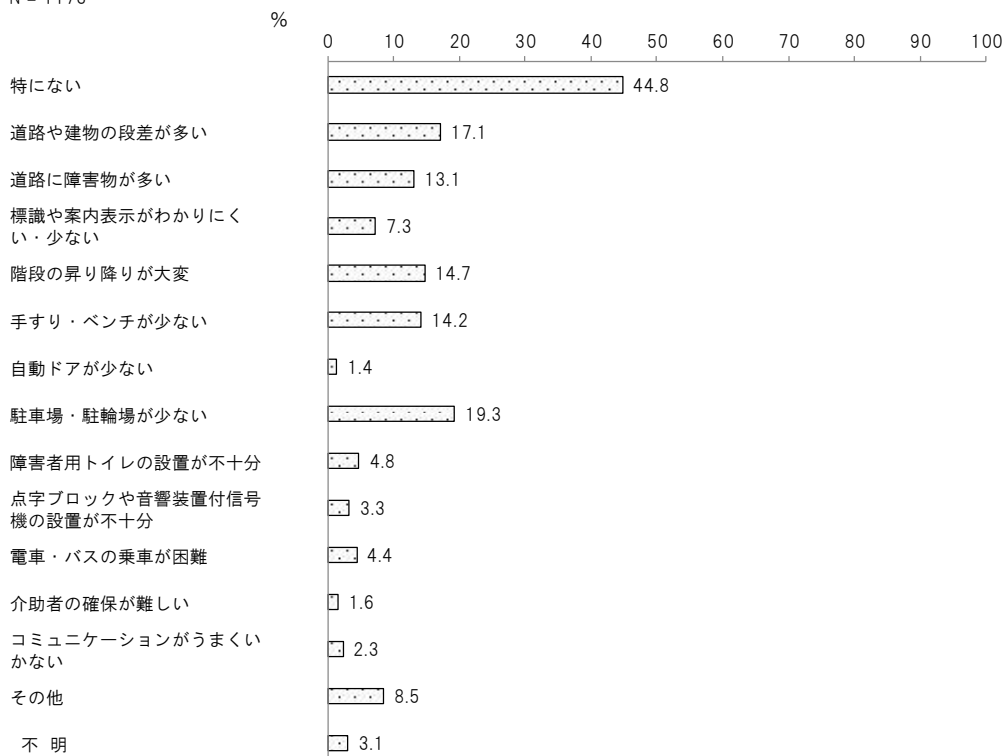
日常の外出頻度について、66.8%の人が「週に5日以上」と回答しており、「週に1～2日」（8.5%）、「週に3～4日」（19.8%）を合わせると、95.1%の人が週に1日以上外出しています。



問17-1 外出の際に、街の中や建物の中で困ったり、不便に思うことはありますか。

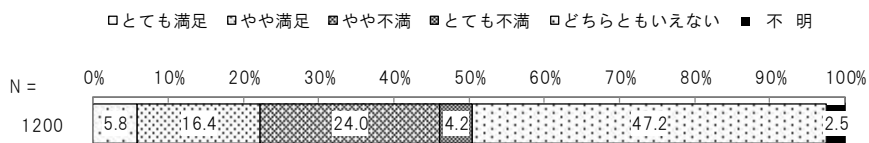
外出される際に、街の中や建物の中で困ったり、不便に思うことは、「特にない」をあげる人が44.8%と最も多く、次いで「駐車場・駐輪場が少ない」（19.3%）、「道路や建物の段差が多い」（17.1%）と続いています。

N = 1173



問18 あなたが日常生活を送る範囲で、まちのバリアフリーについて満足していますか。

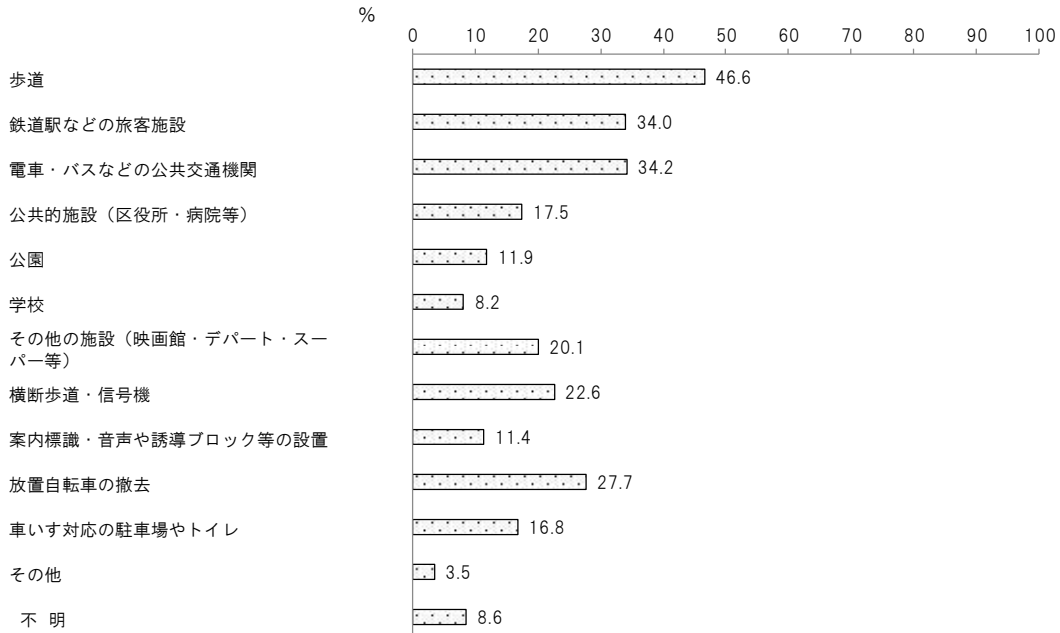
まちのバリアフリーの満足度について、「どちらともいえない」が47.2%で最も多くなっています。《満足》より《不満》との回答のほうが上回っています。



問19 公共施設、生活関連施設や鉄道等のバリアフリー化の整備が進んでいますが、これからバリアフリー化を進めてほしい施設等がありますか。

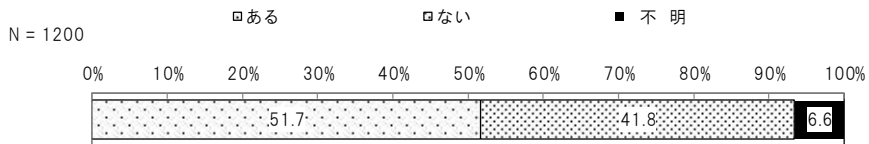
これからバリアフリー化を進めてほしい施設は、「歩道」をあげる人が46.6%と最も多く、次いで「電車・バスなどの公共交通機関」(34.2%)、「鉄道駅などの旅客施設」(34.0%)と続いています。

N = 1200



問20 外出先で高齢者や障害者、妊婦、育児中、外国籍の方などが困っているのを見かけたことがありますか。

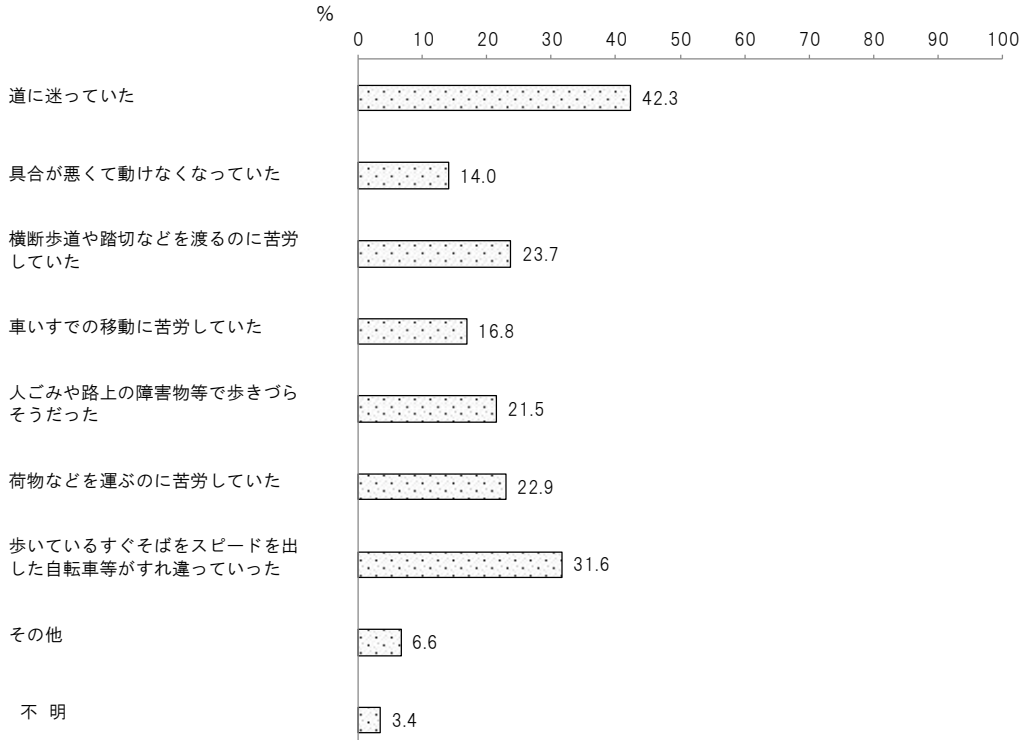
外出先で障害者の方などが困っているのを見かけたことを尋ねたところ、「ある」との回答が51.7%となっています。



問20-1 困っていたのは、どのようなことでしたか。

外出先で困っている人を見かけたことがある人に、その困っていたことを尋ねたところ、「道に迷っていた」をあげる人が42.3%と最も多く、次いで「歩いているすぐそばをスピードを出した自転車等がすれ違っていった」(31.6%)、「横断歩道や踏切などを渡るのに苦労していた」(23.7%)と続いています。

N = 620

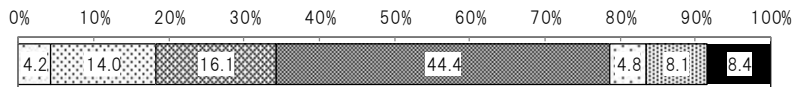


問20-2 その時あなたは困っていた人に対してどうしましたか。

外出先で困っている人を見かけた時にどうしたかと尋ねたところ、「自分のできる範囲で進んで手助けした」が44.1%で最も多く、次いで「助けを求められたので手助けした」(16.1%)と続いています。

- 恥ずかしいので声をかけることができなかった
- 声をかけたかったが、どのように声をかければよいのかわからなかった
- 助けを求められたので手助けした
- 自分のできる範囲で進んで手助けした
- 自分から進んで他の人にも声をかけて手助けした
- その他
- 不明

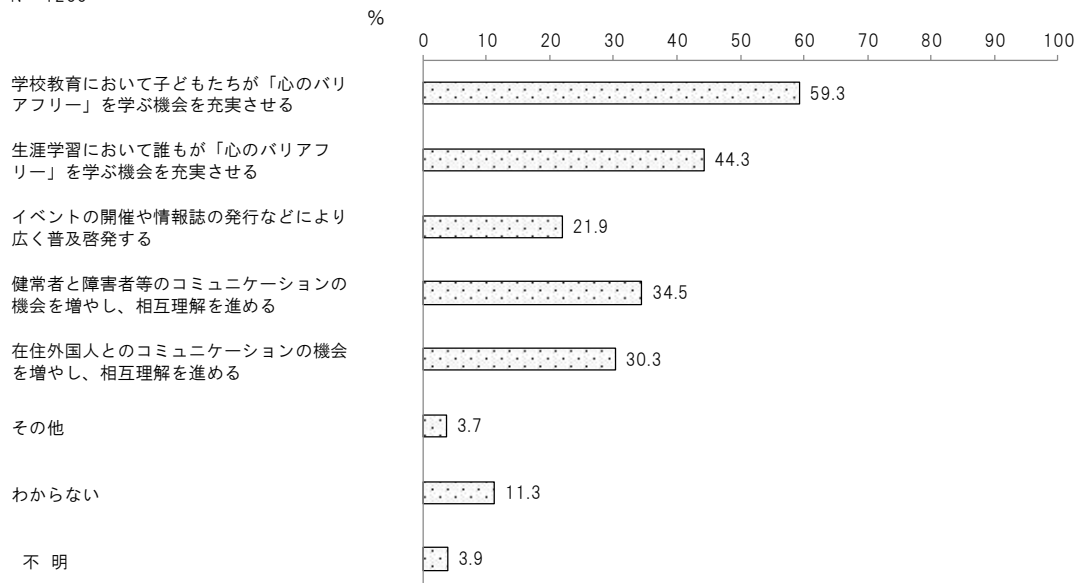
N = 620



問21 障害者や高齢者への理解など、「心のバリアフリー」を普及させるにはどのような仕組みが特に必要だと思いますか。

心のバリアフリーを普及させる仕組みとして特に必要だと思うものは、「学校教育において子どもたちが「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実させる」をあげる人が59.3%と最も多く、次いで「生涯学習において誰もが「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実させる」(44.3%)、「健常者と障害者等のコミュニケーションの機会を増やし、相互理解を進める」(34.5%)と続いています。

N = 1200

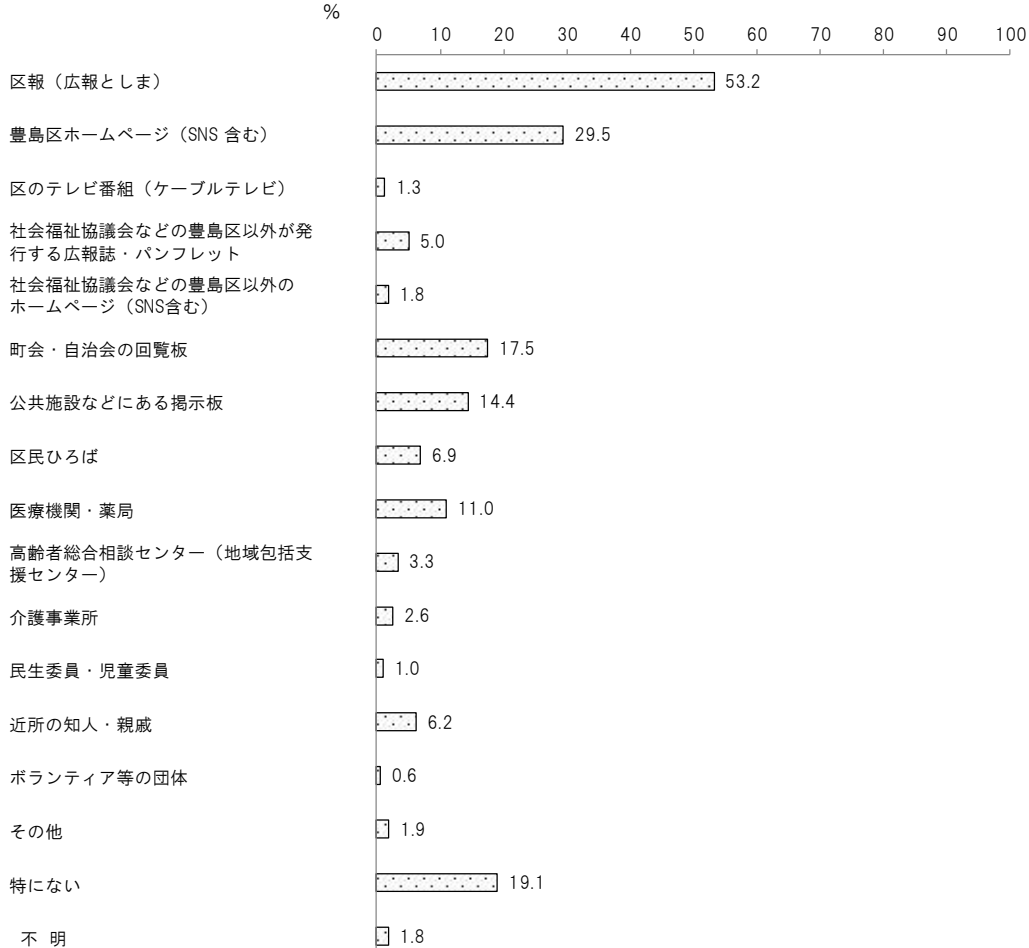


◆◆福祉・健康についての情報提供や相談についてうかがいます◆◆

問22 区の福祉・健康に関する情報をどこから得ていますか

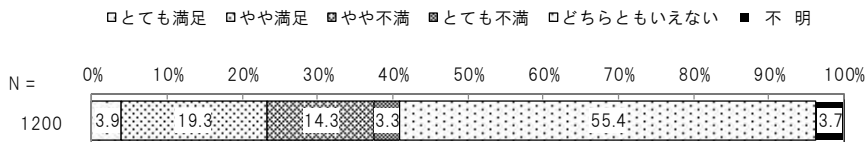
区の福祉・健康に関する情報の入手先は、「区報（広報としま）」をあげる人が53.2%と最も多く、次いで「豊島区ホームページ（SNS含む）」（29.5%）、「町会・自治会の回覧板」（17.5%）と続いています。

N = 1200



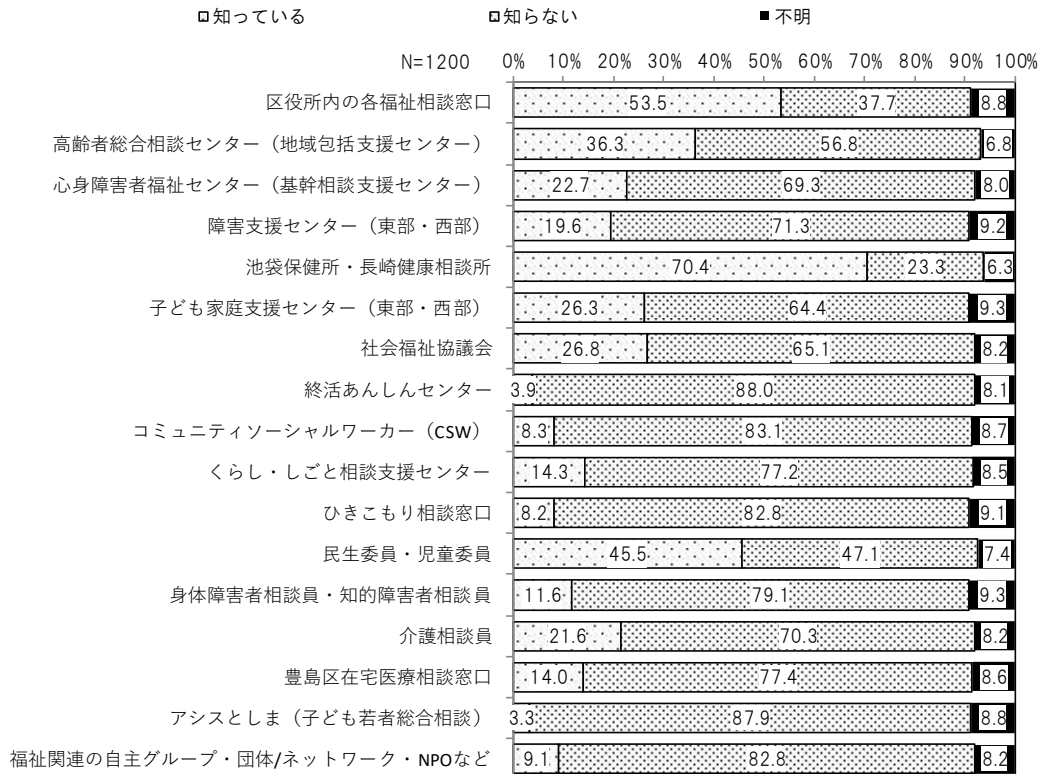
問23 区からの福祉・健康に関する情報の入手のしやすさや、区の相談窓口について満足していますか。

区からの福祉・健康に関する情報の入手しやすさや、区の相談窓口については、55.4%の人が「どちらともいえない」と回答しています。また、「とても満足」（3.9%）と「やや満足」（19.3%）を合わせた、「満足」している割合は2割を超えています。



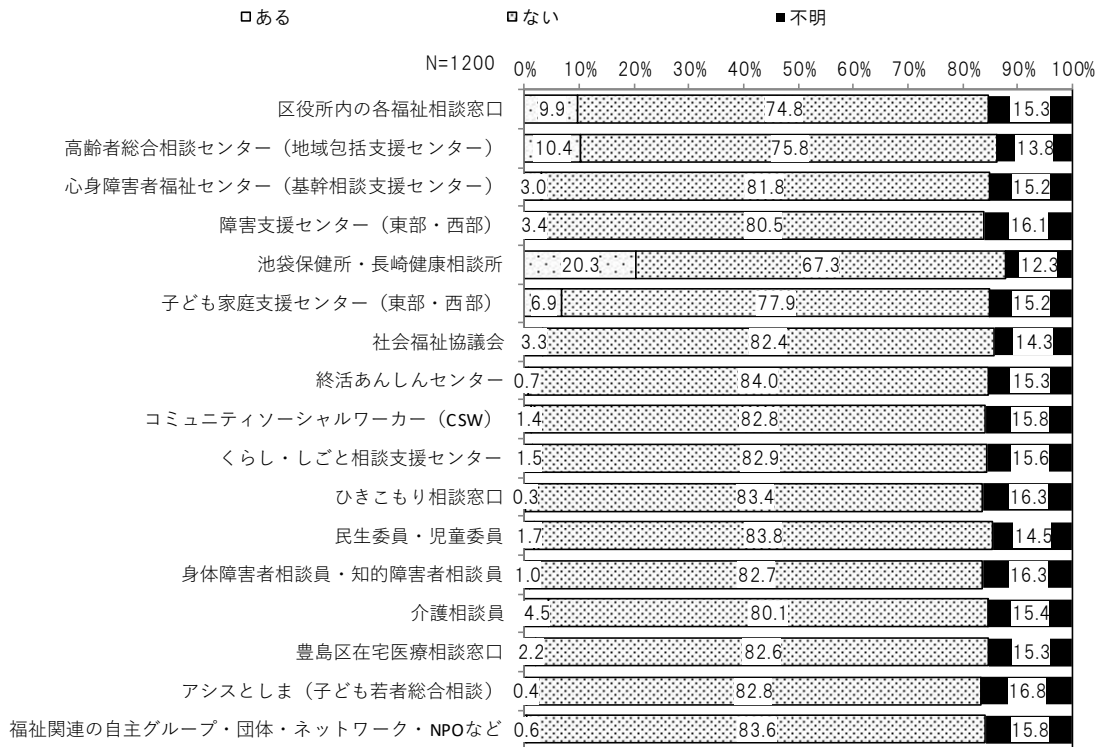
問24 アからタの相談窓口（人）①知っていますか。

各種相談窓口の認知度について、周知度が5割を超える相談窓口は、「区役所の福祉相談窓口」「池袋保健所・長崎健康相談所」の2つです。一方で、約8割の人が「終活あんしんセンター」、「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）」、「ひきこもり相談窓口」、「アセスとしま（子ども若者総合相談）」、「福祉関連の自主グループ・団体・ネットワーク・NPOなど」を「知らない」と回答しています。



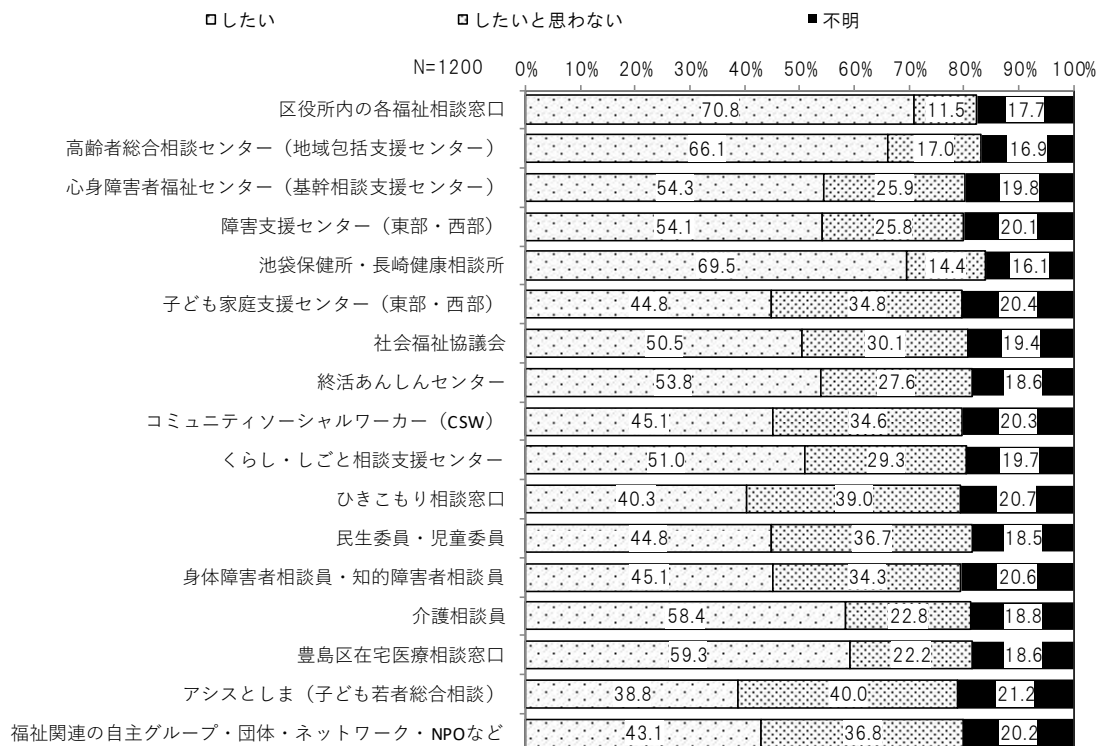
問24 アからタの相談窓口（人）②相談したことがありますか。

各種相談窓口の利用経験について、「池袋保健所・長崎健康相談所」に相談したことが「ある」と回答した人は20.3%、次いで「高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）」が10.4%となっています。それ以外の相談窓口の利用経験は1割に満たない状況です。



問24 アからタの相談窓口（人）③困った時に相談したいと思いませんか。

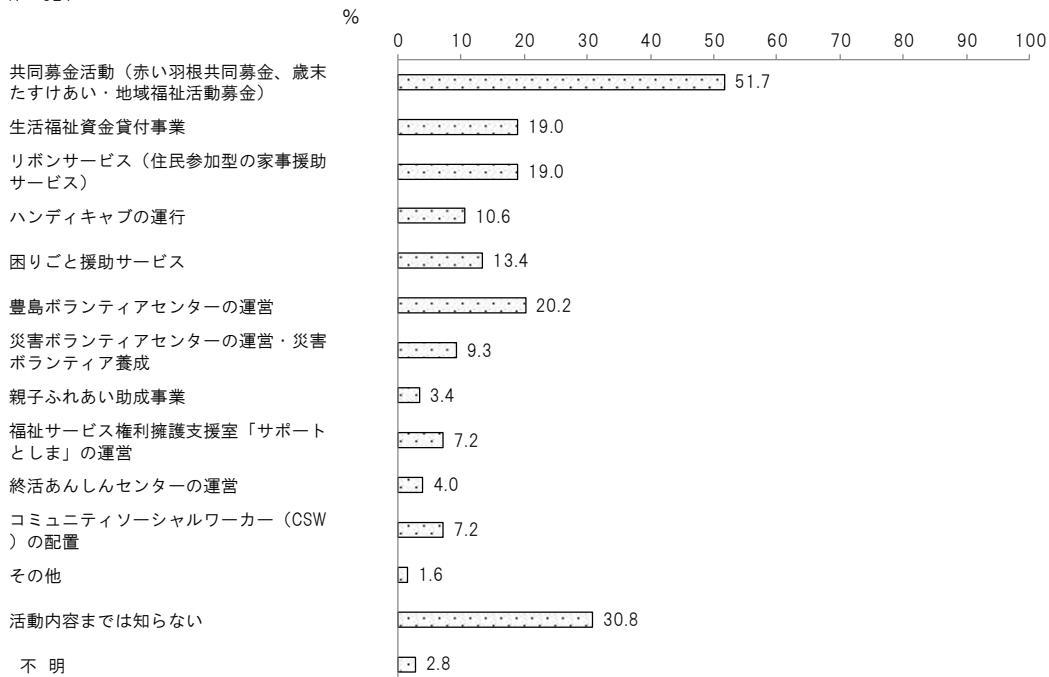
困った時に相談したいと思う相談窓口について、「区役所の福祉相談窓口」に相談「したい」と回答した人は70.8%で最も多く、次いで「池袋保健所・長崎健康相談所」、「高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）」と続きます。



問24-1 「社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会」の活動内容を知っていますか。

社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会の活動内容の認知度については、「共同募金活動（赤い羽根共同募金、歳末たすけあい・地域福祉活動募金）」をあげる人が51.7%と最も多く、次いで「豊島ボランティアセンターの運営」（20.2%）と続いています。一方、約3割の方は「活動内容まではよく知らない」と回答しています。

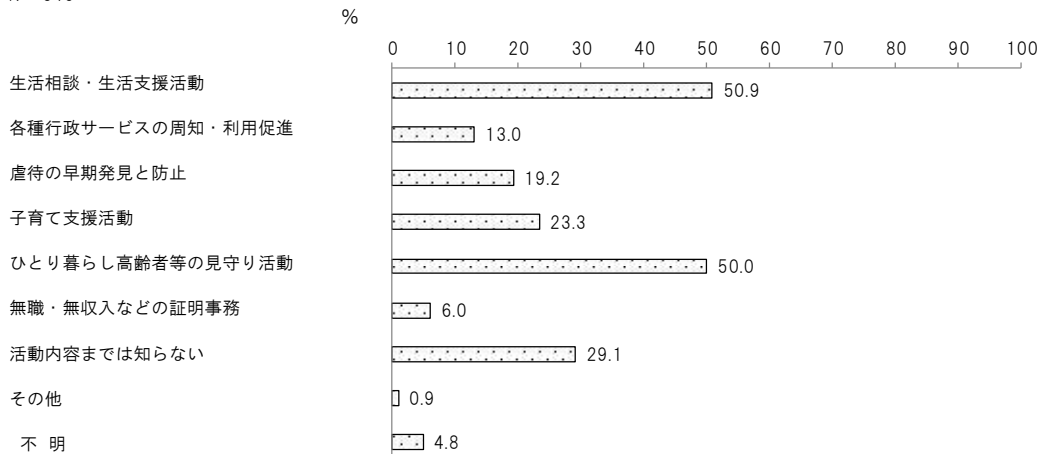
N = 321



問24-2 「民生委員・児童委員」の方たちの活動内容を知っていますか。

民生委員・児童委員の活動内容の認知度については、「生活相談・生活支援活動」との回答が50.9%と最も多く、次いで「ひとり暮らし高齢者等の見守り活動」（50.0%）、「子育て支援活動」（23.3%）と続いています。一方、約3割の人が「活動内容までは知らない」と回答しています。

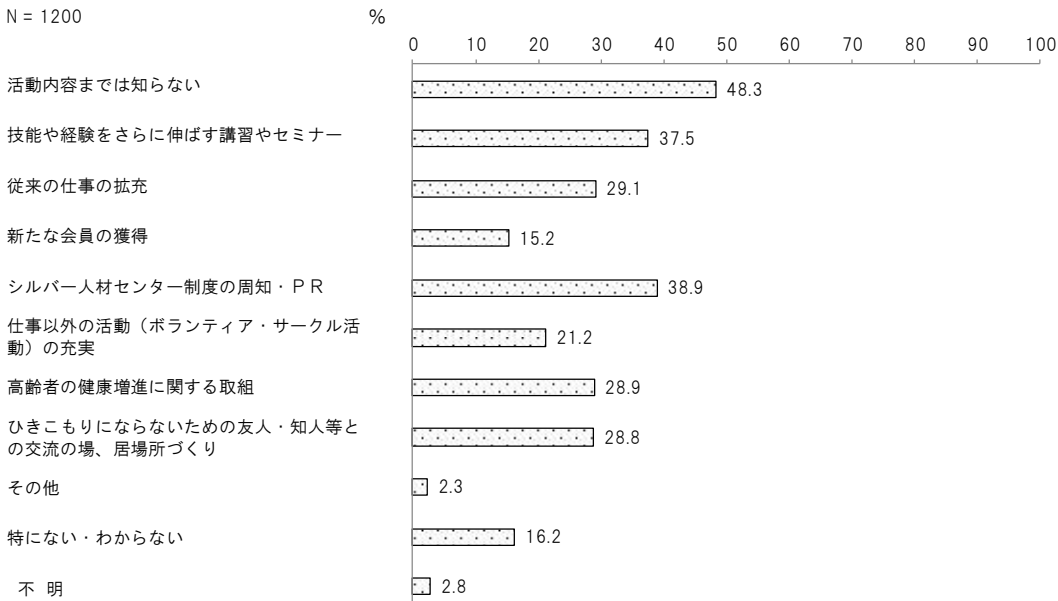
N = 546



問25 「豊島区シルバー人材センター」はこれからどのような活動に重点的に取り組むべきだと思いますか。

シルバー人材センターが重点的に取り組むべき活動については、「シルバー人材センター制度の周知・PR」との回答が38.9%と最も多く、次いで「技能や経験をさらに伸ばす講習やセミナー」(37.5%)、「従来の仕事の拡充」(29.1%)と続いています。一方、約5割の人が「活動内容までは知らない」と回答しています。

N = 1200

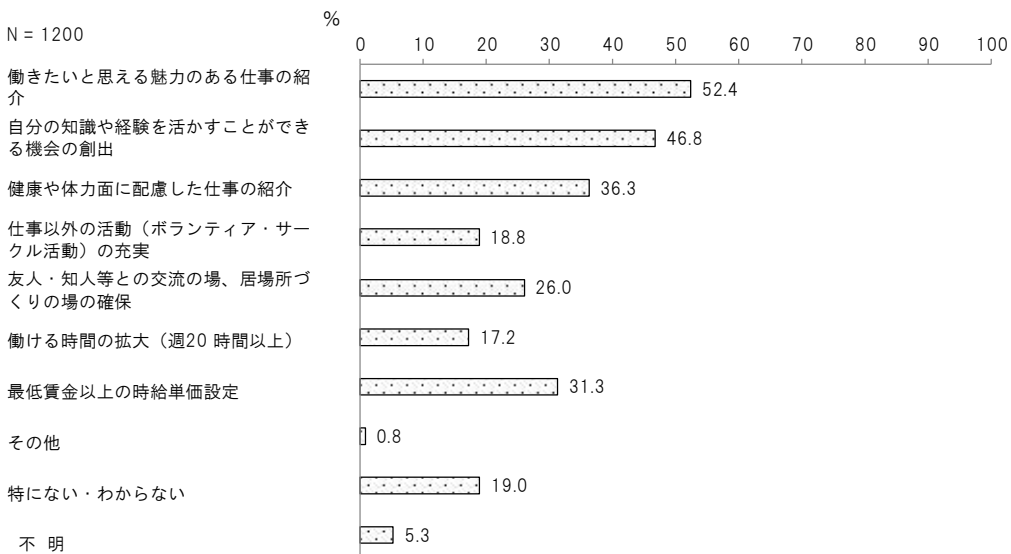


問26 あなたは、どのような取組みがあれば、シルバー人材センターに入会したいと思いますか。

※60歳未満の方は、将来のご希望についてお考えください。

シルバー人材センターに入会したいと思う取り組みについては、「働きたいと思える魅力のある仕事の紹介」との回答が52.4%と最も多く、次いで「自分の知識や経験を活かすことができる機会の創出」(46.8%)、「健康や体力面に配慮した仕事の紹介」(36.3%)と続いています。

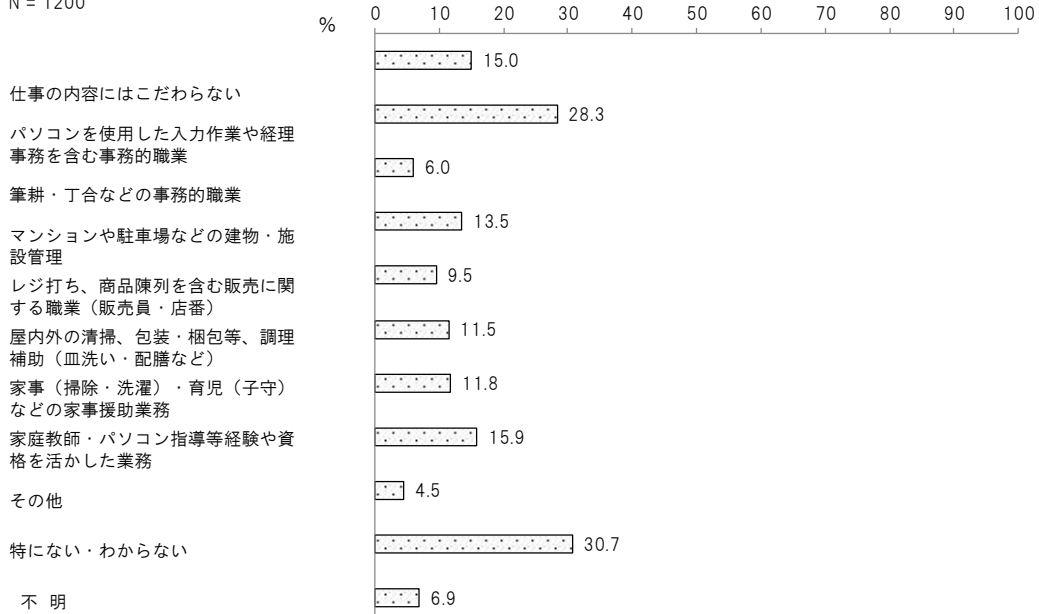
N = 1200



問27 シルバー人材センターを利用して働くとしたら、どのような業務で働きたいですか。
 ※60歳未満の方は、将来のご希望についてお考えください。

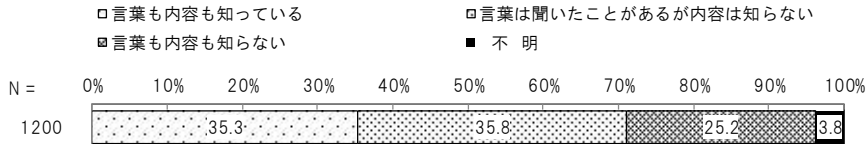
シルバー人材センターを利用して働きたい業務については、「パソコンを使用した入力作業や経理事務を含む事務的職業」との回答が28.3%と最も多く、次いで、「家庭教師・パソコン指導等経験や資格を活かした業務」（15.9%）、「仕事の内容にはこだわらない」（15.0%）と続いています。一方、約3割の人が「特にない・わからない」と回答しています。

N = 1200



問28 成年後見制度について、知っていますか。

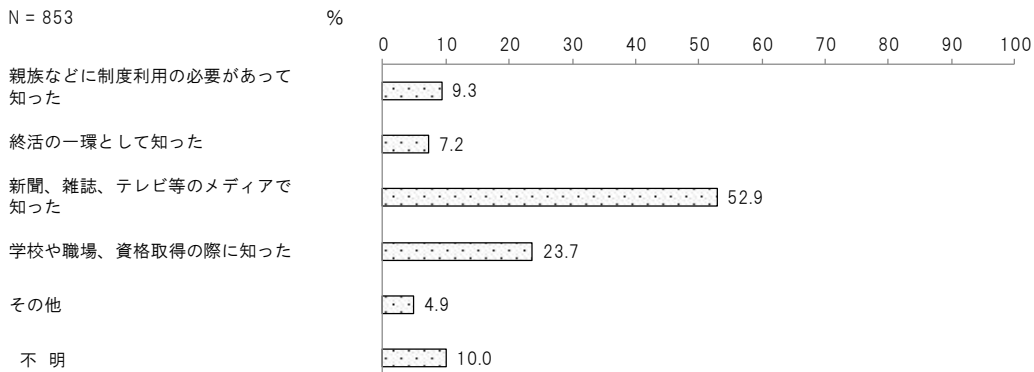
成年後見人制度について、35.3%の人が「言葉も内容も知っている」と回答しています。



問28-1 あなたが成年後見制度を知ったきっかけは何ですか。

成年後見人制度を知ったきっかけについては、「新聞、雑誌、テレビ等のメディアで知った」との回答が52.9%と最も多く、次いで「学校や職場、資格取得の際に知った」（23.7%）と続いています。

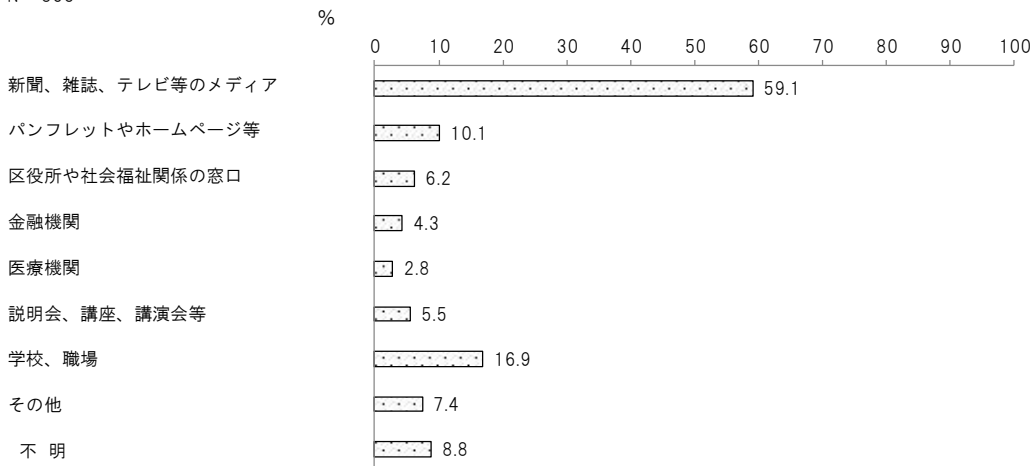
N = 853



問28-2 成年後見制度に関する情報をどこから得ましたか。

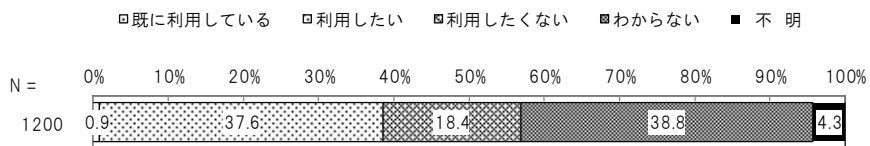
成年後見人制度の情報の入手先については、「新聞、雑誌、テレビ等のメディア」との回答が59.1%と最も多く、次いで、「学校、職場」(16.9%)と続いています。

N = 853



問29 あなたや家族が認知症等により判断が十分にできなくなった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。

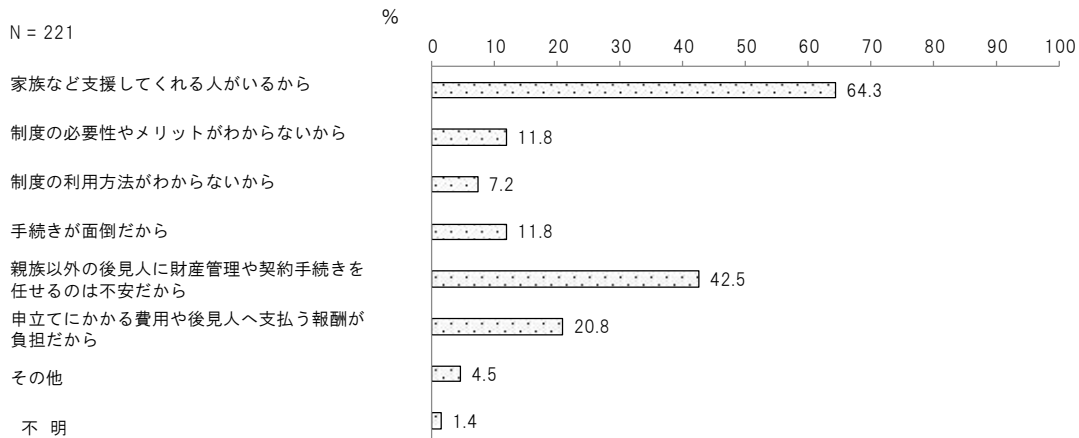
成年後見人制度について、0.9%の人が「すでに利用している」、37.6%の人が「利用したい」と回答しています。一方、18.4%の人が「利用したくない」と回答しています。



問29-1 利用したくない理由は何ですか。

成年後見人制度を利用したくない理由については、「家族など支援してくれる人がいるから」との回答が64.3%と最も多く、次いで「親族以外の後見人に財産管理や契約手続きを任せるのは不安だから」(42.5%)、「申立てにかかる費用や後見人へ支払う報酬が負担だから」(20.8%)と続いています。

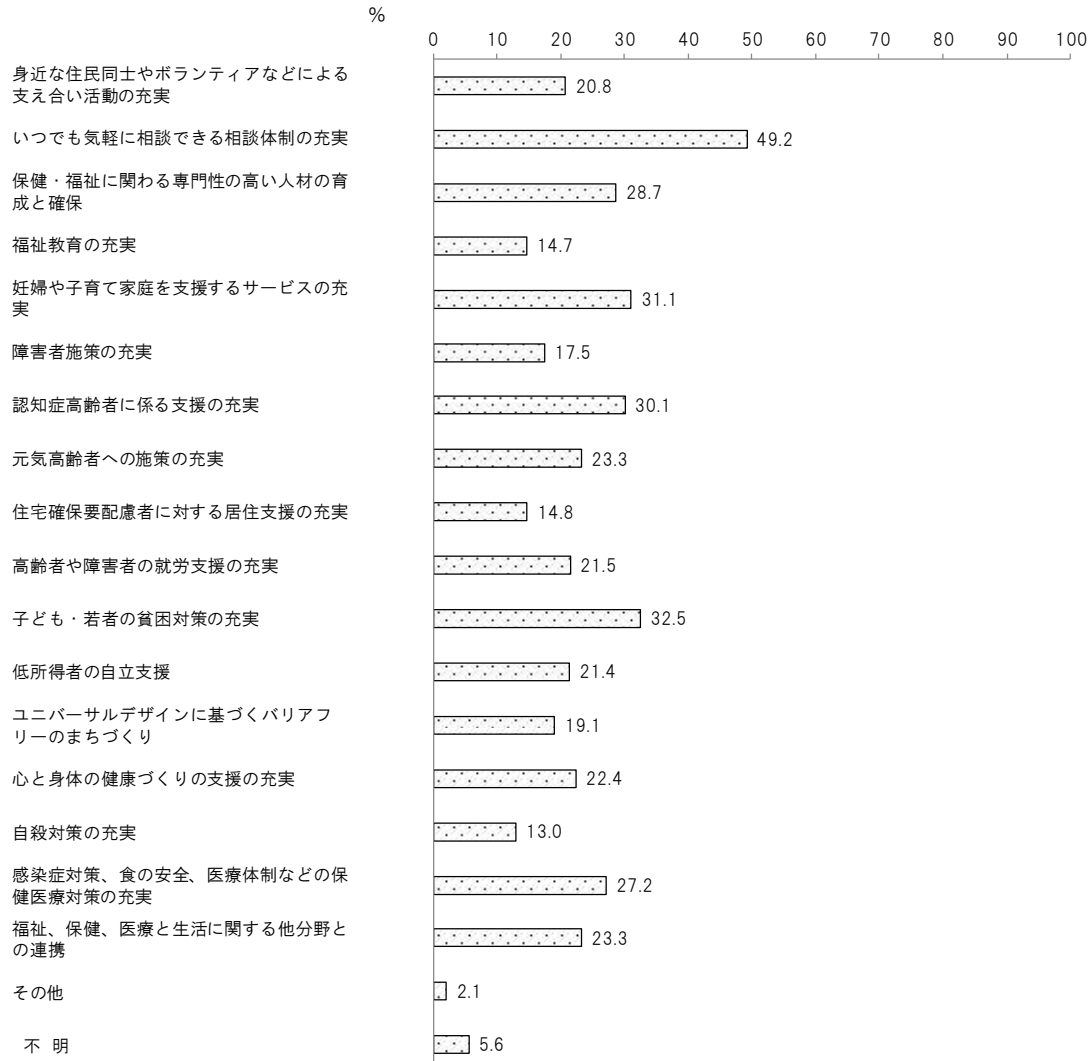
N = 221



問30 豊島区では、地域の保健福祉の推進に取り組んでいますが、あなたはどのようなことに力を入れてほしいですか。

地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこととしては、「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」との回答が49.2%と最も多く、次いで「子ども・若者の貧困対策の充実」(32.5%)、「妊婦や子育て家庭を支援するサービスの充実」(31.1%)と続いています。

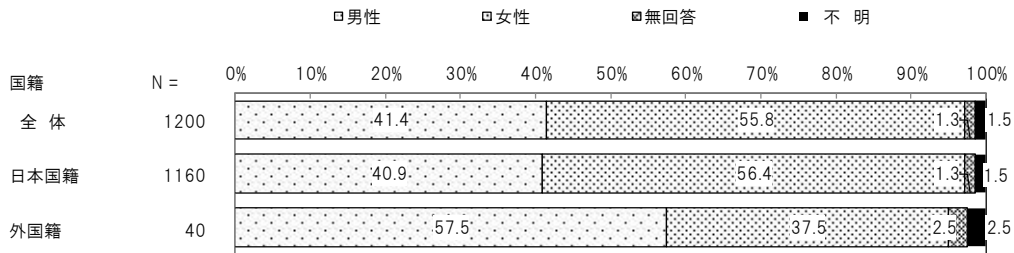
N = 1200



◆◆最後に、あなたご自身についてうかがいます◆◆

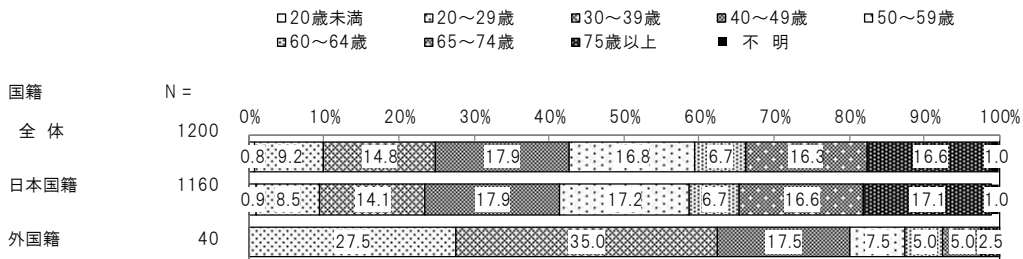
問32 あなたの自認する性をお答えください。

自認する性について、41.4%の人が「男性」、55.8%の人が「女性」、と回答しています。1.3%の人が「無回答」です。



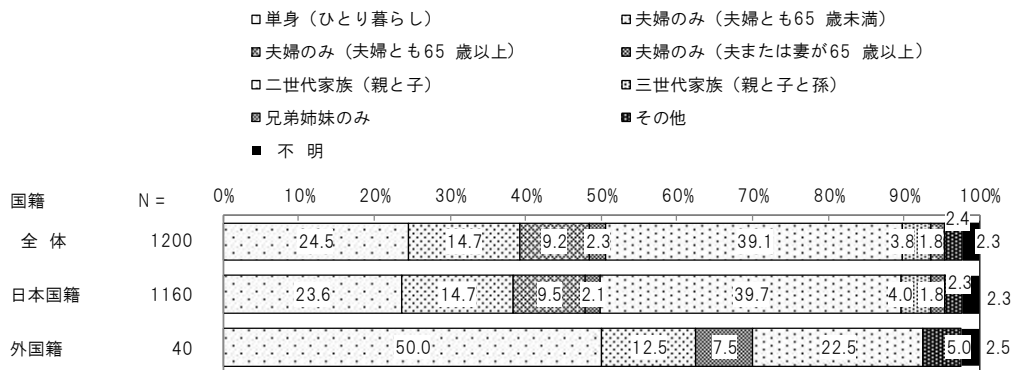
問33 あなたの年齢は何歳ですか。令和4年10月1日現在の満年齢をお答えください。

年齢は、「40～49歳」との回答が17.9%と最も多く、次いで「50～59歳」(16.8%)、「75歳以上」(16.6%)と続いています。



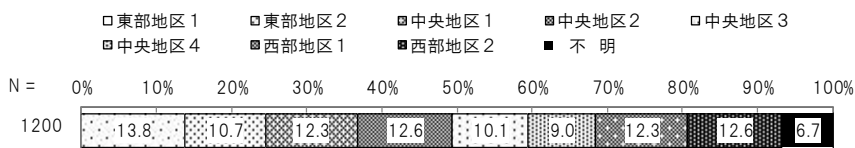
問34 家族構成は、次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つのみ)

家族構成は、「二世帯家族(親と子)」との回答が39.1%と最も多く、次いで「単身(ひとり暮らし)」(24.5%)、「夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)」(14.7%)と続いています。



問35 お住まいの地域は、次のどれにあてはまりますか。

居住地域は、各地区とも約1割を占めています。



【参考：前回調査結果比較】

《令和4年度調査》

自認する性

	日本国籍	外国籍	基数	構成比
男性	474	23	497	41.4% (+4.7%)
女性	654	15	669	55.8% (-5.5%)
無回答	15	1	16	1.3%
不明	17	1	18	1.5%
全体	1,160	40	1,200	100.0%

年齢

	日本国籍	外国籍	基数	構成比
20歳未満	10	-	10	0.8%
20～29歳	99	11	110	9.2%
30～39歳	163	14	177	14.8%
40～49歳	208	7	215	17.9%
50～59歳	199	3	202	16.8%
60～64歳	78	2	80	6.7%
65～74歳	193	2	195	16.3%
75歳以上	198	1	199	16.6%
不明	12	-	12	1.0%
全体	1,160	40	1,200	100.0%

10.0% (20～29歳, 30～39歳, 40～49歳, 50～59歳)
39.6% (60～64歳, 65～74歳, 75歳以上)

家族構成

	日本国籍	外国籍	基数	構成比
単身(ひとり暮らし)	274	20	294	24.5%
夫婦のみ (夫婦とも65歳未満)	171	5	176	14.7%
夫婦のみ (夫婦とも65歳以上)	110	-	110	9.2%
夫婦のみ (夫または妻が65歳以上)	24	3	27	2.3%
二世世代家族(親と子)	460	9	469	39.1%
三世世代家族(親と子と孫)	46	-	46	3.8%
兄弟姉妹のみ	21	-	21	1.8%
その他	27	2	29	2.4%
不明	27	1	28	2.3%
全体	1,160	40	1,200	100.0%

住まいの地域

	基数	構成比
東部地区1	166	13.8%
東部地区2	128	10.7%
中央地区1	147	12.3%
中央地区2	151	12.6%
中央地区3	121	10.1%
中央地区4	108	9.0%
西部地区1	148	12.3%
西部地区2	151	12.6%
不明	80	6.7%
全体	1,200	100.0%

《前回調査》

自認する性

	基数	構成比
男性	338	36.7%
女性	565	61.3%
無回答	19	2.1%
全体	922	100.0%

年齢

	基数	構成比
20～29歳	46	5.0%
30～39歳	115	12.5%
40～49歳	142	15.4%
50～59歳	117	12.7%
60～69歳	221	24.0%
70歳以上	259	28.1%
無回答	22	2.4%
全体	922	100.0%

52.1% (60～69歳, 70歳以上)

家族構成

	基数	構成比
単身(ひとり暮らし)	229	24.8%
夫婦のみ (夫婦とも65歳未満)	123	13.3%
夫婦のみ (夫婦とも65歳以上)	111	12.0%
夫婦のみ (夫または妻が65歳以上)	32	3.5%
二世世代家族(親と子)	310	33.6%
三世世代家族(親と子と孫)	52	5.6%
兄弟姉妹のみ	13	1.4%
その他	17	1.8%
不明	35	3.8%
全体	922	100.0%

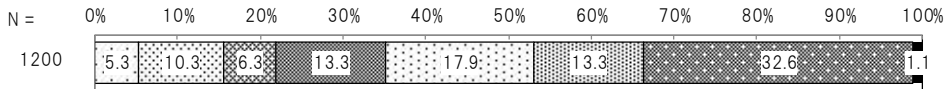
住まいの地域

	基数	構成比
東部地区1	131	14.2%
東部地区2	110	11.9%
中央地区1	115	12.5%
中央地区2	117	12.7%
中央地区3	93	10.1%
中央地区4	77	8.4%
西部地区1	164	17.8%
西部地区2	48	5.2%
無回答	67	7.3%
全体	922	100.0%

問36 豊島区に住み始めてから、どのくらいになりますか。

居住年数は、「30年以上」との回答が32.6%と最も多く、次いで「10～20年未満」(17.9%)と続いています。

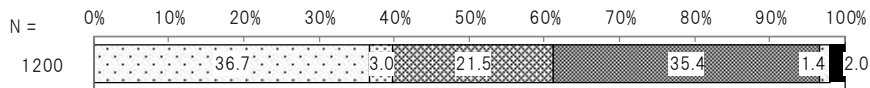
- 1年未満
- 1～3年未満
- 3～5年未満
- 5～10年未満
- 10～20年未満
- 20～30年未満
- 30年以上
- 不明



問37 お住まいは、次のうちどれにあてはまりますか。

住居の種類は、「一戸建て（持ち家）」との回答が36.7%と最も多く、次いで「共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）」(35.4%)、「共同住宅（分譲マンション等）」(21.5%)と続いています。

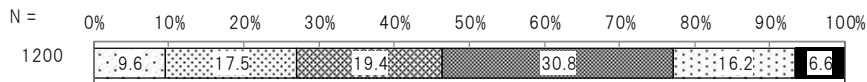
- 一戸建て（持ち家）
- 一戸建て（賃貸）
- 共同住宅（分譲マンション等）
- 共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）
- その他
- 不明



問38 世帯全体の年収（年金含む）について、差し支えなければ、お答えください。

世帯収入は、「700万円以上」との回答が30.8%と最も多く、次いで「400～700万円未満」(19.4%)、「200～400万円未満」(17.5%)と続いています。

- 200万円未満
- 200～400万円未満
- 400～700万円未満
- 700万円以上
- 無回答
- 不明



【参考：前回調査結果比較】

《令和4年度調査》

豊島区居住年数

	基数	構成比
1年未満	63	5.3%
1～3年未満	123	10.3%
3～5年未満	75	6.3%
5～10年未満	160	13.3%
10～20年未満	215	17.9%
20～30年未満	160	13.3%
30年以上	391	32.6%
不明	13	1.1%
全体	1,200	100.0%

住居の種類

	基数	構成比
一戸建て(持ち家)	440	36.7%
一戸建て(賃貸)	36	3.0%
共同住宅 (分譲マンション等)	258	21.5%
共同住宅(賃貸マンション・ アパート・社宅等)	425	35.4%
その他	17	1.4%
不明	24	2.0%
全体	1,200	100.0%

世帯年収

	基数	構成比
200万円未満	115	9.6%
200～400万円未満	210	17.5%
400～700万円未満	233	19.4%
700万円以上	369	30.8%
無回答	194	16.2%
不明	79	6.6%
全体	1,200	100.0%

《前回調査》

豊島区居住年数

	基数	構成比
1年未満	33	3.6%
1～3年未満	69	7.5%
3～5年未満	63	6.8%
5～10年未満	120	13.0%
10～20年未満	146	15.8%
20～30年未満	79	8.6%
30年以上	356	38.6%
不明	56	6.1%
全体	922	100.0%

住居の種類

	基数	構成比
一戸建て(持ち家)	357	38.7%
一戸建て(賃貸)	19	2.1%
共同住宅(分譲マンション等)	220	23.9%
共同住宅(賃貸マンション・ アパート・社宅等)	259	28.1%
その他	12	1.3%
不明	55	6.0%
全体	922	100.0%

世帯年収

	基数	構成比
50万円未満	21	2.3%
50～80万円未満	16	1.7%
80～100万円未満	17	1.8%
100～200万円未満	101	11.0%
200～300万円未満	121	13.1%
300～400万円未満	98	10.6%
400～500万円未満	101	11.0%
500～1,000万円未満	224	24.3%
1,000万円以上	138	15.0%
無回答	85	9.2%
全体	922	100.0%

16.8%

23.7%

第2部 クロス集計編

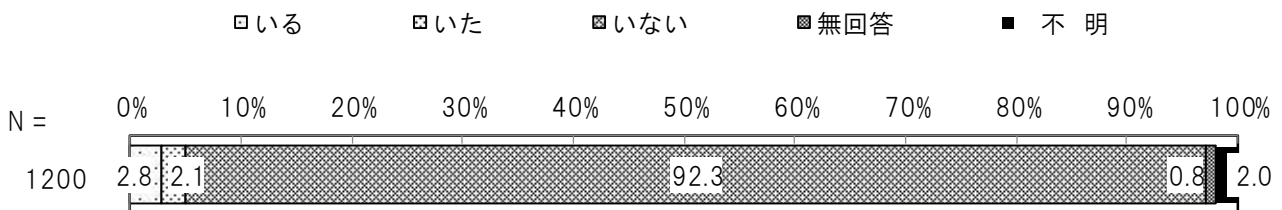
(1) ひきこもり

問3 あなたの世帯に、ひきこもり状態にある(あった)方はいますか。(○は1つのみ)

■ひきこもり状態にある方のいる世帯は全体の2.8%、過去にいた世帯も加えると全体の4.9% (単純集計)

- ・世帯数につき1人のひきこもり状態の方がいると仮定すると回答者総数1,200名に対して33名のひきこもり状態の方がいると推測され、調査回答時(令和4年10月1日時点)での世帯数181,160世帯から仮定すると、区内には5,072人の方がひきこもり状態にある(過去にいた世帯を含めると8,877人の方がひきこもり状態にあった)と推計されます。

【ひきこもり状態にある(あった方)】



(参考) 内閣府のひきこもりに対する調査では、15歳~39歳でその世代の人口の1.57%、40~64歳でその世代の人口の1.45%がひきこもり状態にあると推計されるとの調査結果を公表しています。

※内閣府では、これまで、平成21年度と平成27年度に、満15歳から満39歳までの者を対象にひきこもりの実態調査を実施。また、平成30年度において、満40歳から満64歳までの者を対象とするひきこもりの実態調査を実施。

(参考) 江戸川区では、区内に9,096人(江戸川区民約76人に1人)のひきこもり当事者がいるとの調査結果を公表しています。

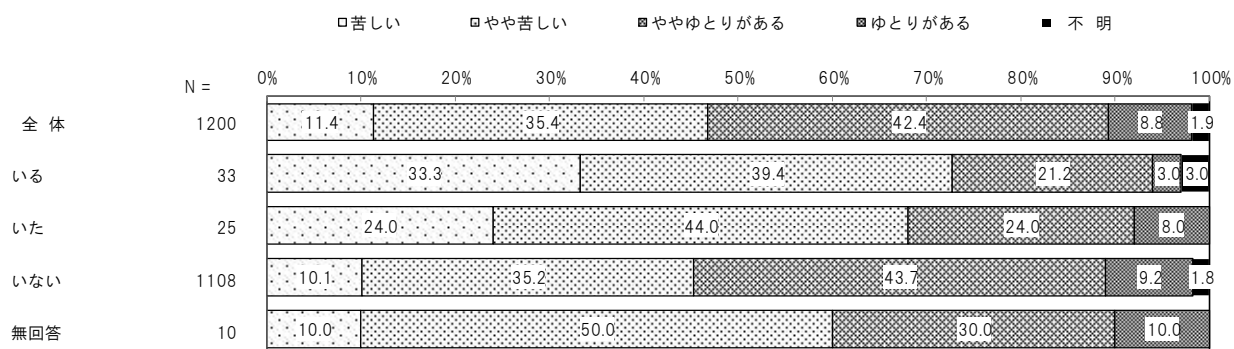
※江戸川区では令和3年7月から令和4年2月にかけて、ひきこもりなどに関する大規模調査を実施。調査結果から、ひきこもり当事者を抱える世帯数は7,604世帯、ひきこもり当事者は7,919人いることが判明し、不登校児童生徒等江戸川区が把握している数値を合わせると同区内に9,096人のひきこもり当事者がいると公表。

■ひきこもり状態にある方のいる世帯はくらしが苦しく、負担が大きいと感じている傾向

■ひきこもり状態にある方のいる世帯は、いない世帯に比べて、経済面や健康面での負担が大きいと感じている傾向

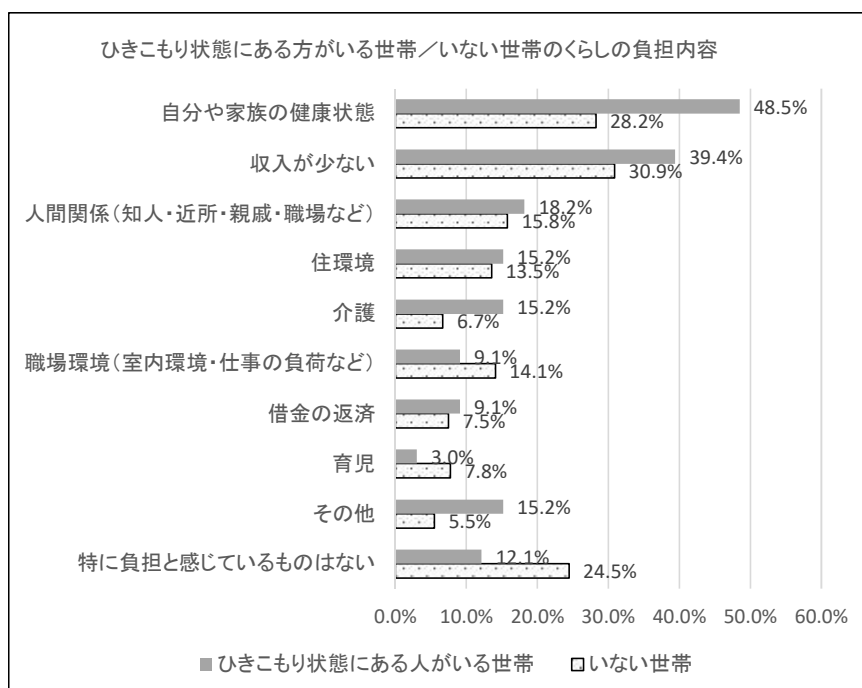
- ・くらしの状況別でみると、回答者全体では、《苦しい》と感じている人は4割台半ばとなっているのに対し、ひきこもり状態のある方のいる世帯では、《苦しい》と感じている方は7割に上ります。

【ひきこもり状態にある方×くらしの状況】



- ・くらしの負担内容について、ひきこもり状態にある方のいる世帯では、「自分や家族の健康状態」との回答が48.5%と最も多く、次いで、「収入が少ない」(39.4%)と続きます。負担の内容をひきこもり状態にある方がいない世帯と比較すると、ひきこもり状態にある方がいる世帯の方が、「職場環境」「育児」を除くすべての項目で負担と回答する割合が高くなっています。

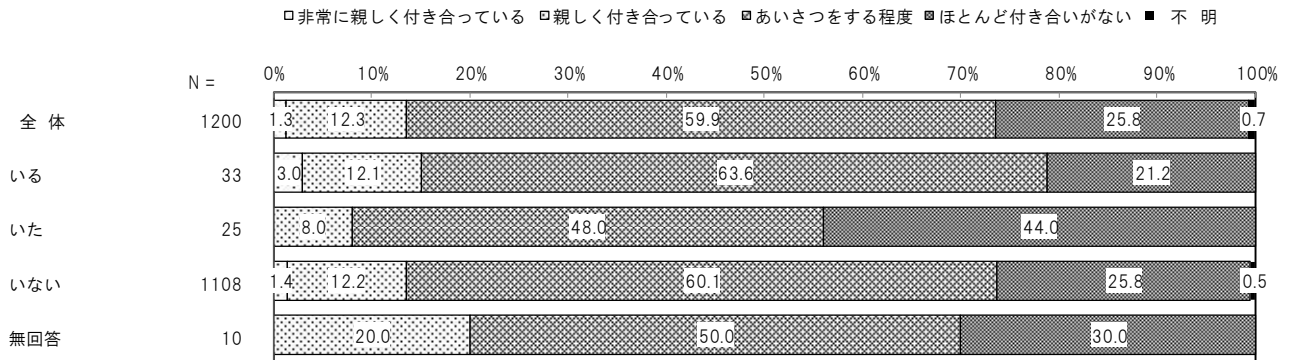
【ひきこもり状態にある方×くらしの負担内容】



■ひきこもり状態にある方のいる世帯は、相談できる方がおらず孤立する傾向

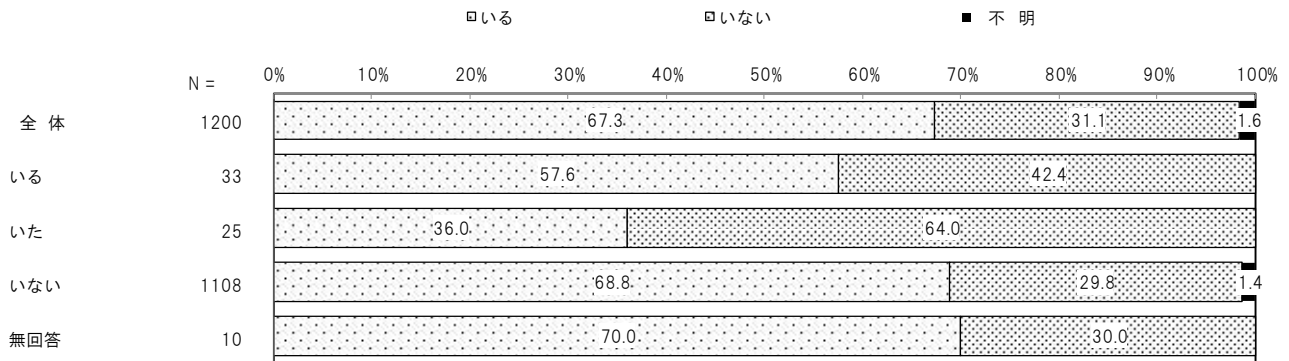
- ・近所付き合いの頻度について、「ほとんど近所付き合いがない」と回答した方は、ひきこもり状態にある方が「いた」世帯は44.0%になっており、ひきこもり状態にある方がいない世帯（25.8%）より高くなっています。

【ひきこもり状態にある方×近所づきあいの頻度】



- ・相談できる方について、「いない」と回答した方は、ひきこもり状態にある方が「いる」世帯は42.4%、過去に「いた」世帯は64.0%になっており、ひきこもり状態にある方が「いない」世帯（29.8%）より高くなっています。

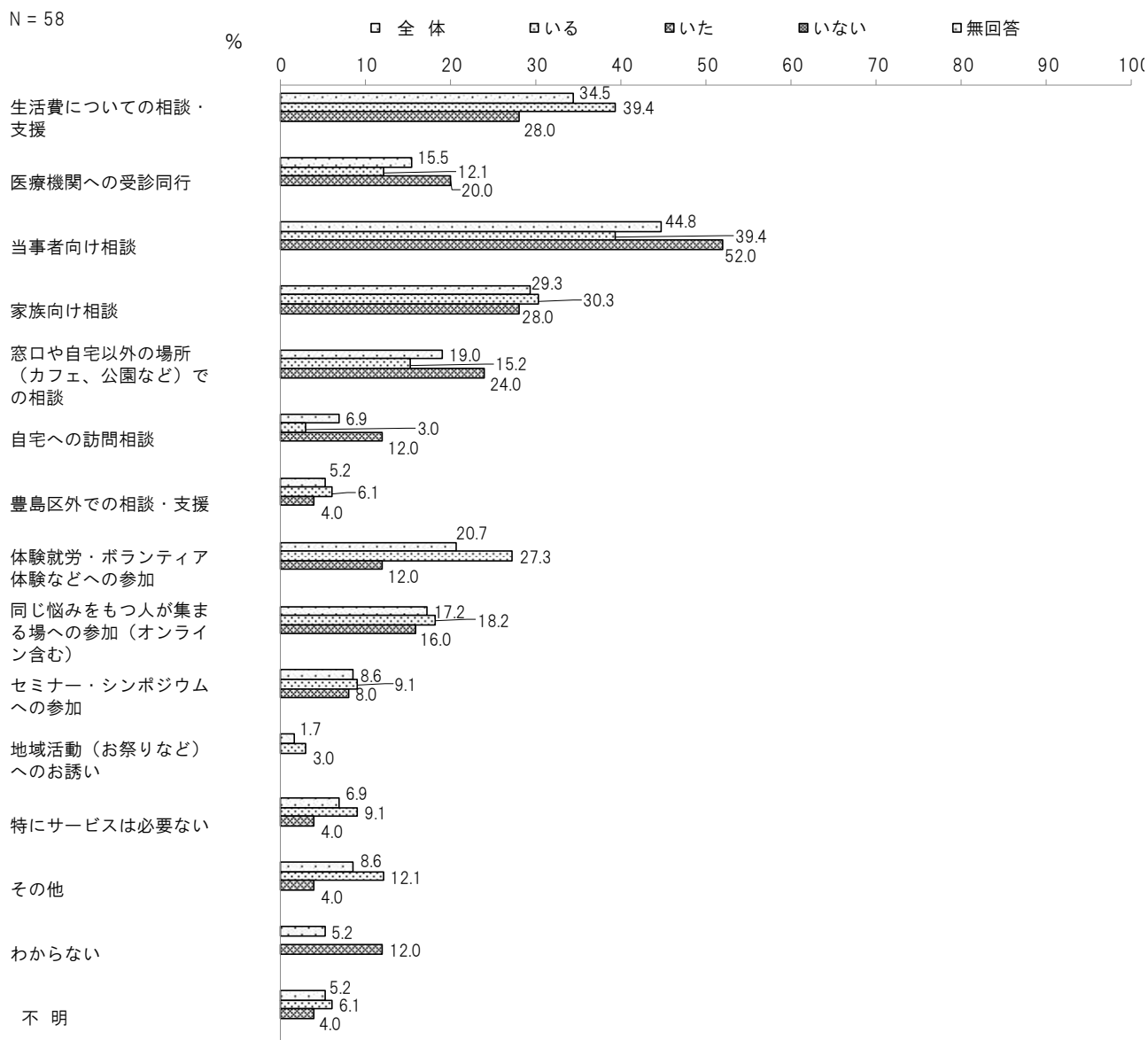
【ひきこもり状態にある方×相談できる人の有無】



■ひきこもり状態にある方がいる世帯の方が受たいサービスは生活費や当事者・家族向けなどの相談

- ・ひきこもり状態にある方がいる世帯が受たいサービスをみると、ひきこもり状態にある方が「いる」世帯または、過去に「いた」世帯では、「当事者向け相談」や「生活費についての相談」、「家族向け相談」が多くなっています。

【ひきこもり状態にある方×ひきこもりの状態で受たいサービス】

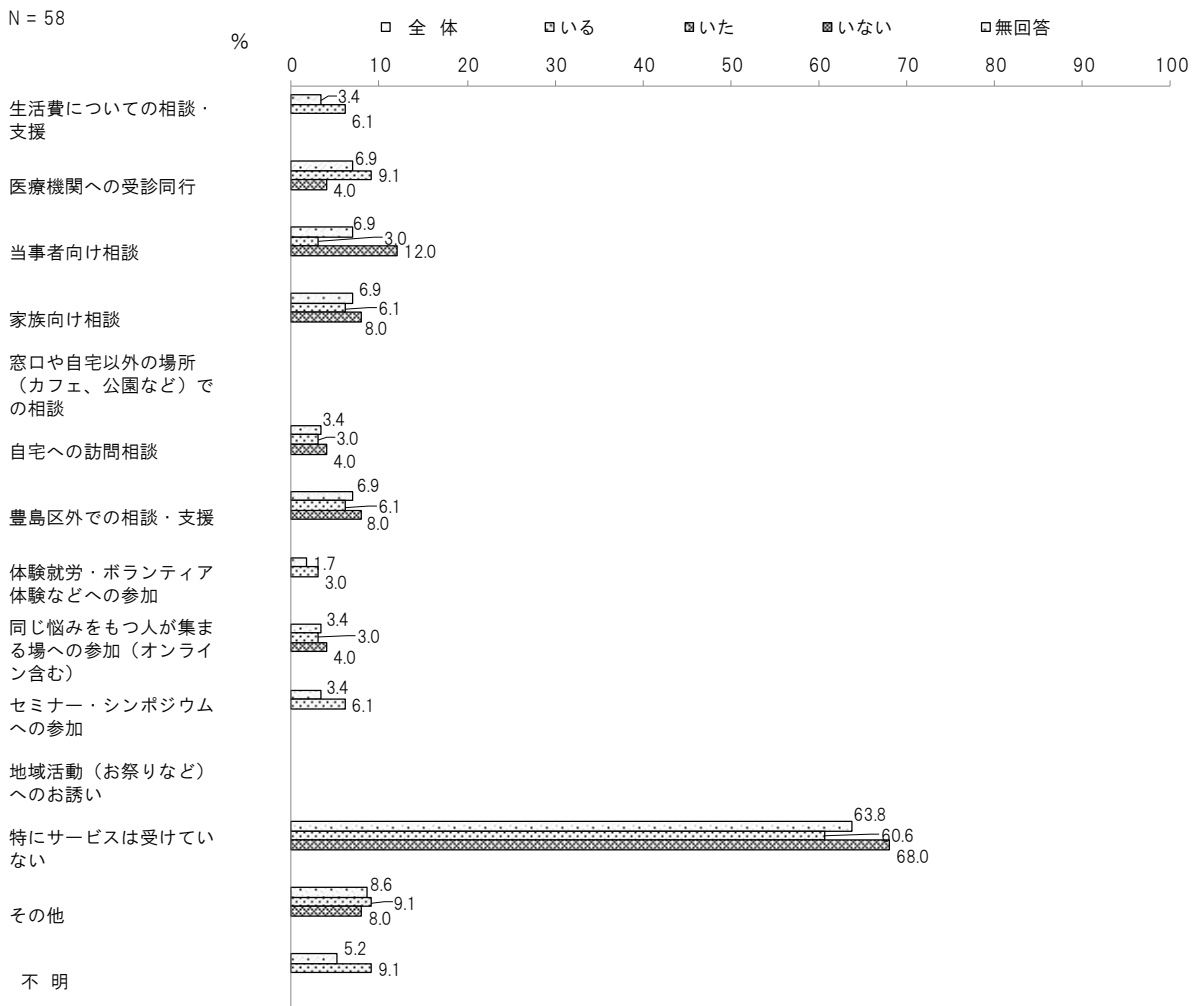


■ひきこもり状態にある方がいる世帯、または過去にいた世帯に必要な支援が届いていない

■ひきこもりに関するサービスの認知度が低い

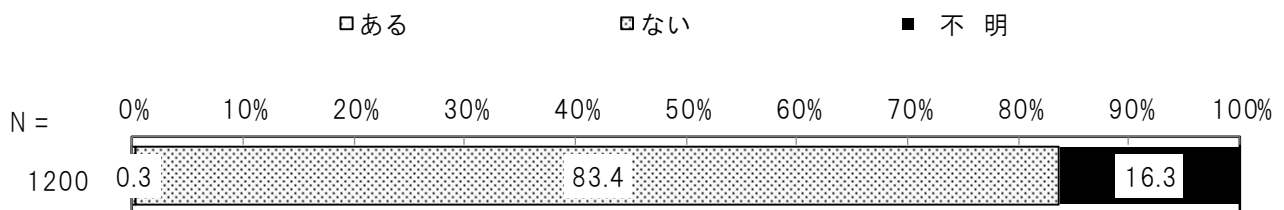
- ・ひきこもり状態にある方がいる世帯で受けているサービスをみると、「特にサービスは受けていない」と回答した方は、ひきこもり状態にある方が「いる」世帯は60.6%、過去に「いた」世帯は68.0%になっています。

【ひきこもり状態にある方×ひきこもりの状態で受けているサービス】



- ・ひきこもり相談窓口については、ひきこもり状態にある方がいる・いないを問わず、回答者全体のうち82.8%の方が「知らない」と回答しています。

【ひきこもり相談窓口の認知度（単純集計再掲）】



(2) 災害

問 14 あなたは、災害が発生した時に一人で避難できますか。(○は1つのみ)

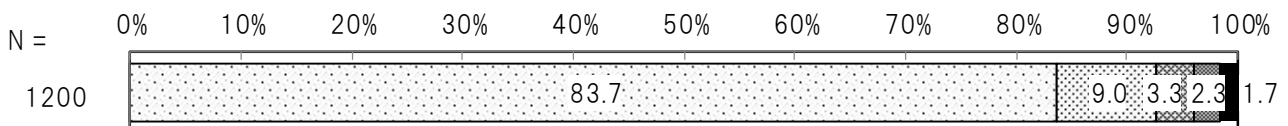
問 16 災害時に支援を必要とする人への支援策として、地域でどのような備えが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 一人で避難できない人は、全体の 12.3%、そのうち周りに助けてくれる人もいない人は約 3%
- 一人で避難できず、周りに助けてくれる人もいない人は単身（ひとり暮らし）に多い
- 一人で避難できない人の割合は、中央地区 4 で高い
- 災害時に支援を必要とする人への支援策としては、「災害時に支援を必要とする人の地域で把握しておく」と考える人が約 7 割

- ・災害発生時の避難について、「一人で避難できない」と回答した人は 12.3%です。そのうち、「家族や近所の人から支援をしてもらえる予定」と回答した人は 9.0%、「周りに助けてくれる人もいない」と回答した人は、3.3%となっています。

【災害発生時の避難】

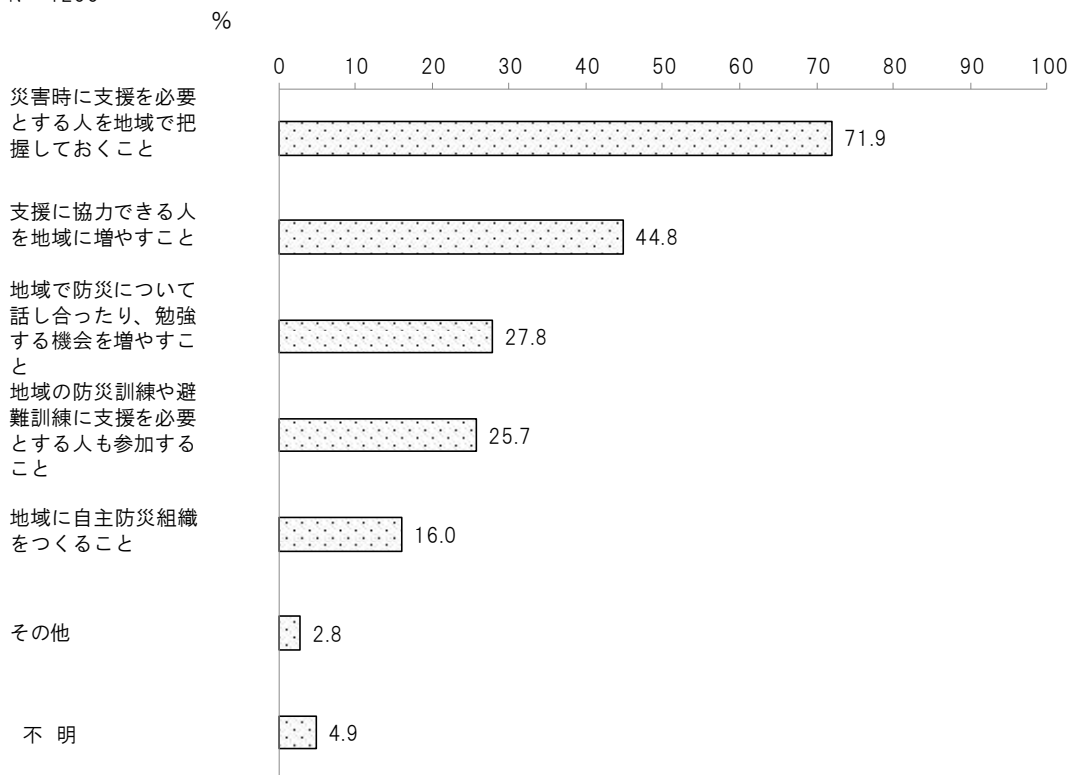
- 一人で避難できる
- 一人で避難できないが、家族や近所の人から支援をしてもらえる予定
- 一人で避難できず、また、周りに助けてくれる家族や近所の人はいない
- その他
- 不明



- ・災害時に支援を必要とする人に対する地域の備えとしては、「災害時に支援を必要とする人を地域で把握しておくこと」との回答が71.9%と最も多く、次いで「支援に協力できる人を地域に増やすこと」(44.8%)、「地域で防災について話し合ったり、勉強する機会を増やすこと」(27.8%)と続いています。

【災害時に必要な備え】

N = 1200



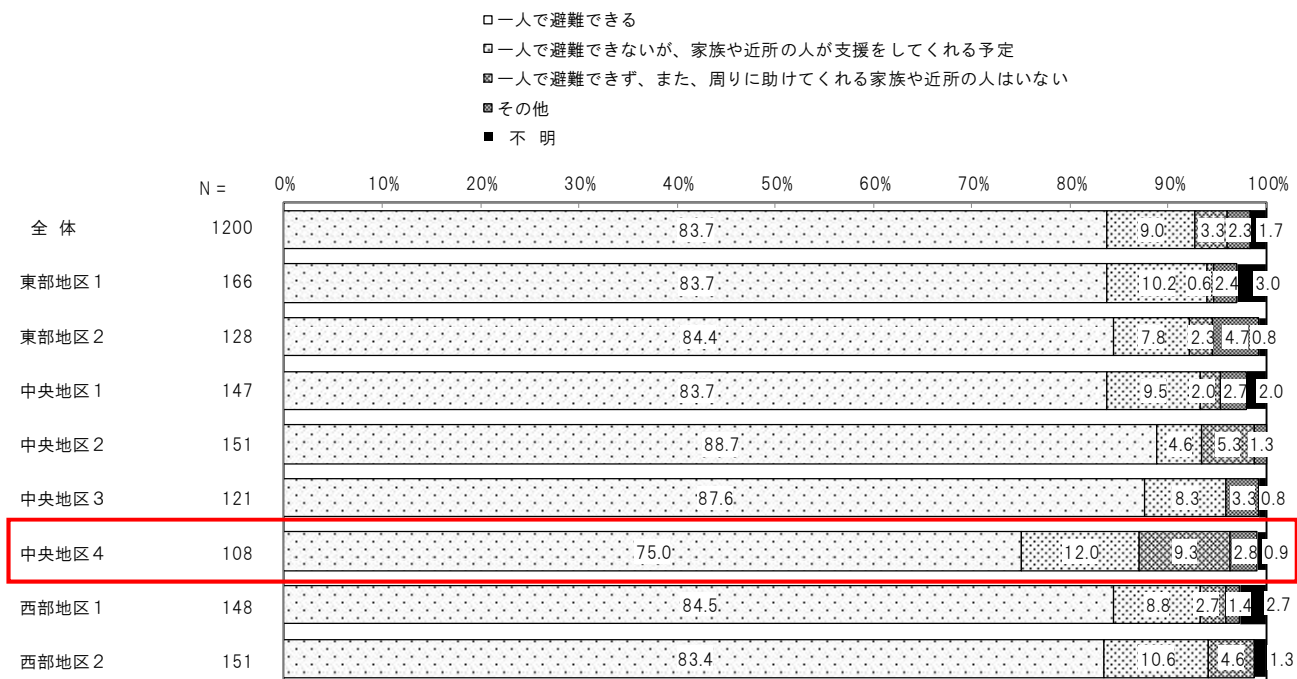
- ・「一人で避難できず、周りに助けてくれる人もいない」と回答した人の家族構成をみると、「単身（ひとり暮らし）」が62.5%と最も多くなっています。

【災害発生時の避難×家族構成】

Q14 災害発生時の避難	一人で避難できず、また、周りに助けてくれる家族や近所の人はいない
Q34 家族構成	
単身（ひとり暮らし）	62.5%
二世世代家族（親と子）	15.0%
夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）	7.5%
夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）	5.0%
夫婦のみ（夫または妻が65歳以上）	2.5%
三世世代家族（親と子と孫）	2.5%
兄弟姉妹のみ	-
その他	2.5%

- ・居住地域別でみると、「中央地区4」は、「一人で避難できる」と回答した人の割合が75.0%と他地区に比べ8.4%以上低く、「一人で避難できず、また、周りに助けてくれる家族や近所の人はいない」との回答は、9.3%となっており、最も多くなっています。

【災害発生時の避難×居住地域】



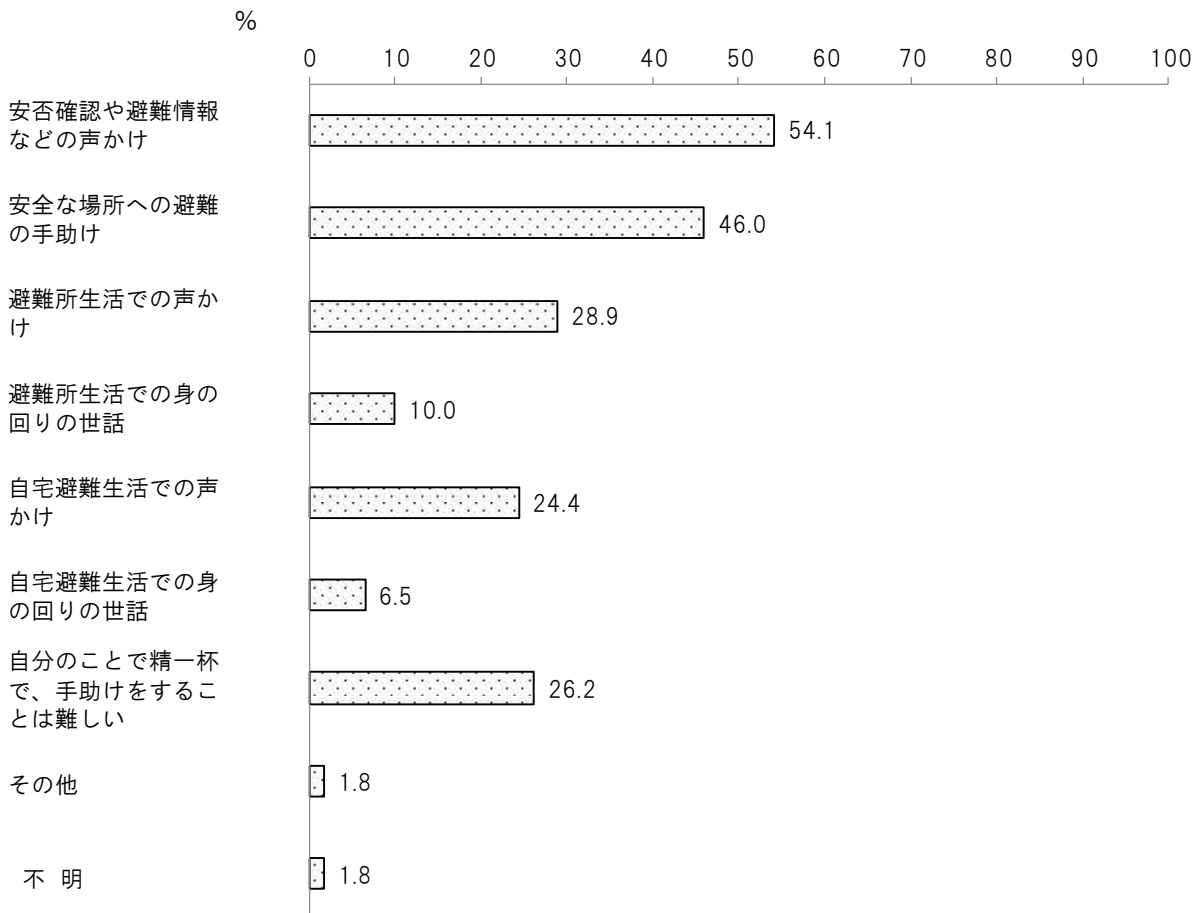
問 15 あなたは、災害時において、ご近所にお住まいの支援を必要とする人に対して、どのような手助けや対応ができますか。（〇はいくつでも）

- 災害時にできる手助けや対応については、「安否確認や避難情報等の声掛け」が年代、家族構成、居住地域、住居の種類を問わず最も多いが、避難所生活での身の回りの世話までできると回答した人は少ない
- 災害時に「自分のことで精一杯で、手助けすることが難しい」と考える人は、20代や後期高齢者世代の人に比較的多い

・災害時に支援を必要とする人に対する手助けや対応としては、「安否確認や避難情報などの声かけ」との回答が54.1%と最も多く、次いで「安全な場所への避難の手助け」（46.0%）、「避難所生活での声かけ」（28.9%）と続いています。

【災害時にできる手助けや対応】

N = 1200



- ・年代別でみると、年代で最も多い活動内容が異なっています。具体的には、「20～29歳」および「75歳以上」以外の世代では、「安否確認や避難情報などの声かけ」が最も多くなっています。一方、「20歳未満」と「20～29歳」では「安全な場所への避難の手助け」との回答が最も多くなっています。

- ・「自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい」との回答は「75歳以上」で55.3%と最も多く、「20～29歳」(29.1%)、「65～74歳」(28.2%)が続きます。

【災害時にできる手助けや対応×年代】

～各年代の上位3位のみを掲載～

《20歳未満》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	60.0%
1	安全な場所への避難の手助け	60.0%
3	避難所生活での声かけ	20.0%

《30～39歳》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	63.3%
2	安全な場所への避難の手助け	53.7%
3	避難所生活での声かけ	40.1%

《50～59歳》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	60.9%
2	安全な場所への避難の手助け	55.4%
3	避難所生活での声かけ	34.2%

《65～74歳》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	56.4%
2	安全な場所への避難の手助け	42.6%
3	自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい	28.2%

《20～29歳》

1	安全な場所への避難の手助け	45.5%
2	安否確認や避難情報などの声かけ	40.9%
3	自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい	29.1%

《40～49歳》

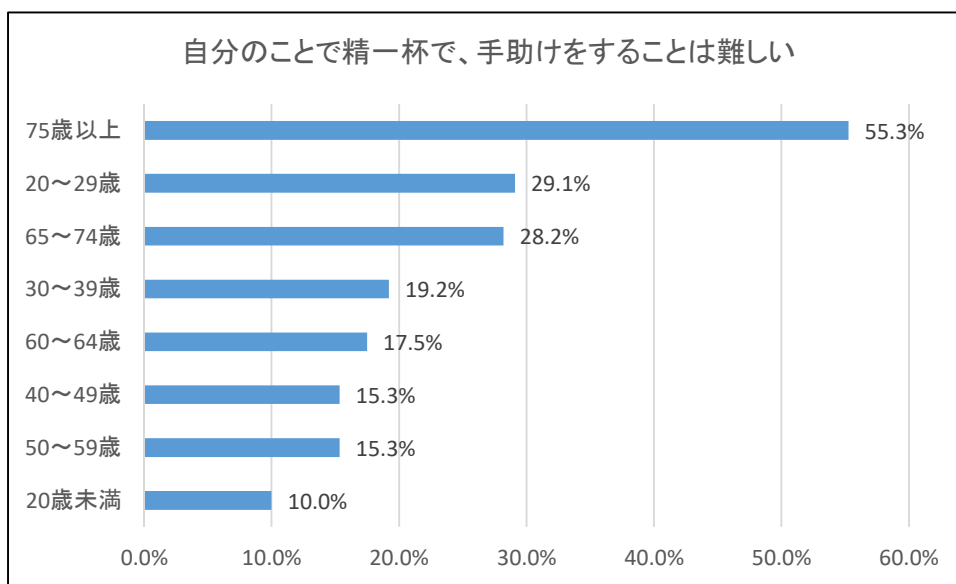
1	安否確認や避難情報などの声かけ	64.2%
2	安全な場所への避難の手助け	58.6%
3	避難所生活での声かけ	34.4%

《60～64歳》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	58.8%
2	安全な場所への避難の手助け	43.8%
3	避難所生活での声かけ	32.5%

《75歳以上》

1	自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい	55.3%
2	安否確認や避難情報などの声かけ	31.2%
3	安全な場所への避難の手助け	21.1%



- ・家族構成別でみると、「その他」を除くすべての構成では「安否確認や避難情報などの声かけ」が最も多くなっています。一方、「自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい」との回答は、「夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）」で40.9%と最も多くなっています。

【災害時にできる手助けや対応×家族構成】

～各家族構成の上位3位のみを掲載～

《单身(ひとり暮らし)》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	45.6%
2	安全な場所への避難の手助け	43.2%
3	避難所生活での声かけ	21.1%

《夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	46.4%
2	自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい	40.9%
3	安全な場所への避難の手助け	33.6%

《二世世代家族(親と子)》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	60.8%
2	安全な場所への避難の手助け	50.7%
3	避難所生活での声かけ	32.2%

《兄弟姉妹のみ》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	57.1%
2	安全な場所への避難の手助け	42.9%
3	避難所生活での声かけ	42.9%

《夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)》

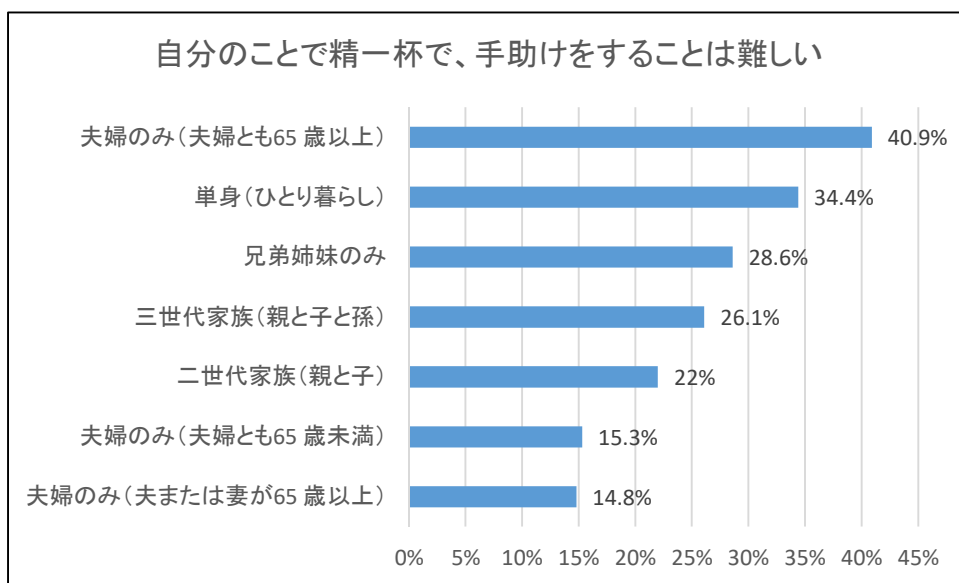
1	安否確認や避難情報などの声かけ	55.7%
2	安全な場所への避難の手助け	49.4%
3	避難所生活での声かけ	35.2%

《夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	66.7%
2	安全な場所への避難の手助け	44.4%
3	避難所生活での声かけ	25.9%

《三世世代家族(親と子と孫)》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	56.5%
2	安全な場所への避難の手助け	41.3%
3	避難所生活での声かけ	39.1%



- ・居住地域別でみると、すべての地域では「安否確認や避難情報などの声かけ」が最も多くなっています。一方、「自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい」との回答は、「中央地区3」のみ20%を下回っています。

【災害時にできる手助けや対応×居住地域】

～各地区の上位3位のみを掲載～

《東部地区1》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	53.6%
2	安全な場所への避難の手助け	42.8%
3	避難所生活での声かけ	29.5%

《中央地区1》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	45.6%
2	安全な場所への避難の手助け	42.9%
3	自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい	27.9%

《中央地区3》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	62%
2	安全な場所への避難の手助け	52.1%
3	避難所生活での声かけ	33.9%

《西部地区1》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	57.4%
2	安全な場所への避難の手助け	47.3%
3	避難所生活での声かけ	30.4%

《東部地区2》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	62.5%
2	安全な場所への避難の手助け	52.3%
3	避難所生活での声かけ	23.4%

《中央地区2》

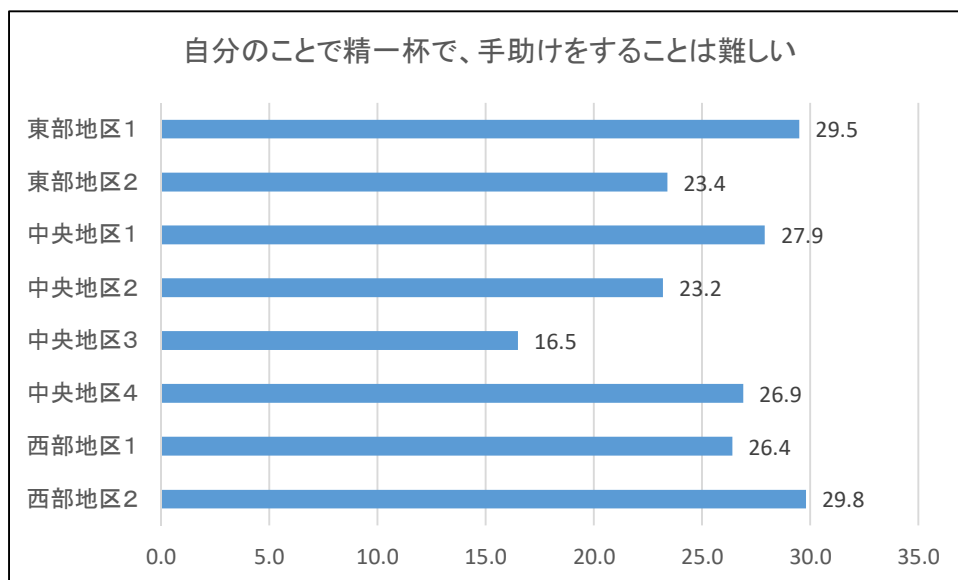
1	安否確認や避難情報などの声かけ	55.6%
2	安全な場所への避難の手助け	51.0%
3	避難所生活での声かけ	31.8%

《中央地区4》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	54.6%
2	安全な場所への避難の手助け	49.1%
3	避難所生活での声かけ	31.5%

《西部地区2》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	49.7%
2	安全な場所への避難の手助け	37.7%
3	避難所生活での声かけ	33.1%



- ・住居の種類別でみると、すべての種類では「安否確認や避難情報などの声かけ」が最も多くなっています。「自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい」との回答は、住居種類別では特筆すべき特徴は見られませんでした。

【災害時にできる手助けや対応×住居の種類】

～各住居の上位3位のみを掲載～

《一戸建て(持ち家)》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	53.2%
2	安全な場所への避難の手助け	44.5%
3	避難所生活での声かけ	29.3%

《一戸建て(賃貸)》

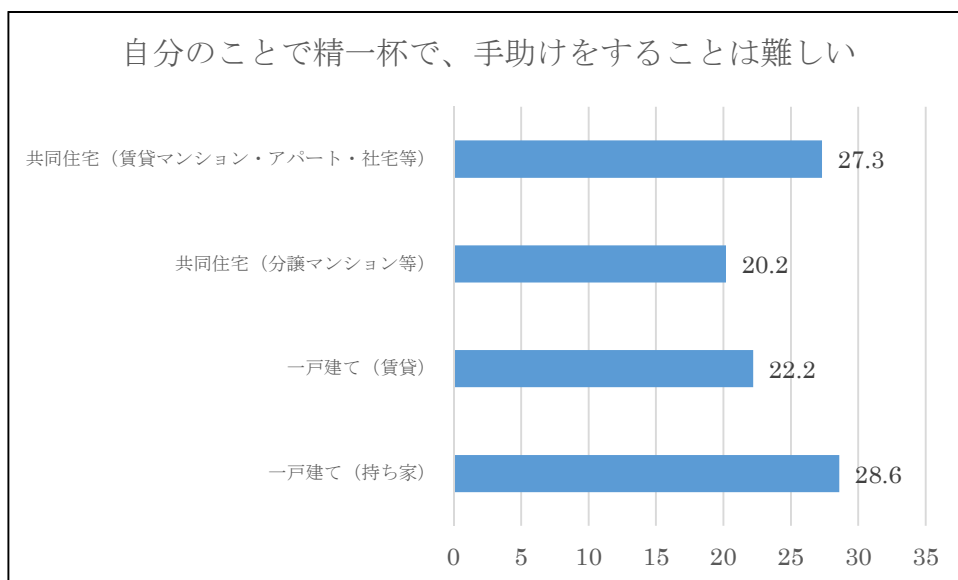
1	安否確認や避難情報などの声かけ	63.9%
2	安全な場所への避難の手助け	58.3%
3	自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい	22.2%

《共同住宅(分譲マンション等)》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	61.2%
2	安全な場所への避難の手助け	51.2%
3	避難所生活での声かけ	29.5%

《共同住宅(賃貸マンション・アパート・社宅等)》

1	安否確認や避難情報などの声かけ	50.8%
2	安全な場所への避難の手助け	45.2%
3	避難所生活での声かけ	29.4%



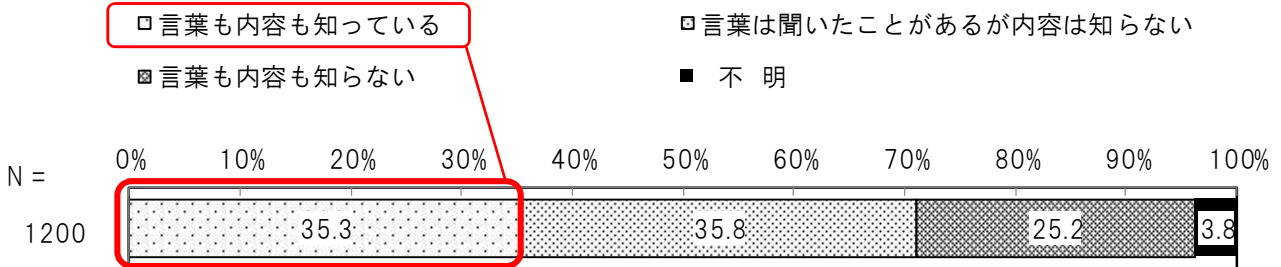
(3) 成年後見制度

問 28 成年後見制度について、知っていますか。(○は1つのみ)

■ 成年後見者制度の認知度は約4割。制度利用や資格取得など、必要に迫られている人やくらしの状況にゆとりがある人ほど認知度が高い

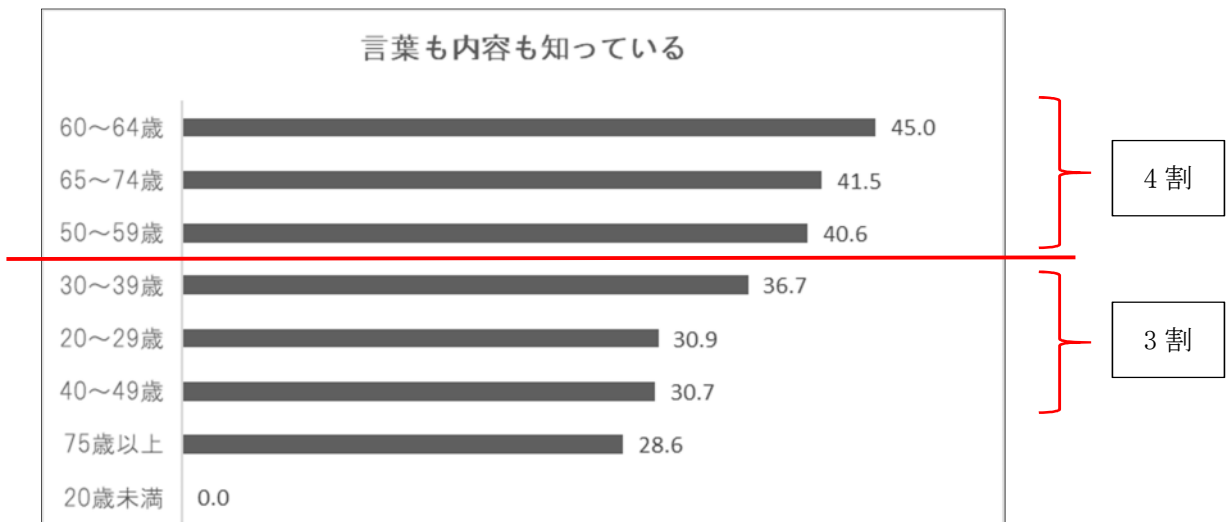
- ・ 成年後見人制度について、35.3%の人が「言葉も内容も知っている」と回答しています。

【成年後見制度の認知度】



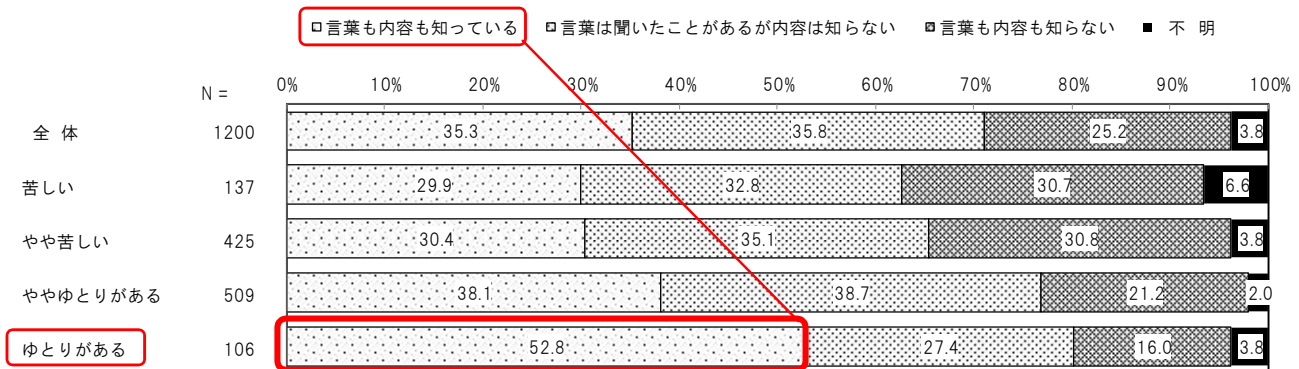
- ・ 年代別でみると、「言葉も内容も知っている」と回答した方は、50代以降（75歳以上は除く）で4割を超えているのに対し、40代以前では3割程度にとどまっています。

【成年後見制度の認知度×年代】



- ・くらしの状況でみると、くらしの状況に《ゆとりがある》方ほど「言葉も内容も知っている」との回答が多くなっています。

【成年後見制度の認知度×くらしの状況】



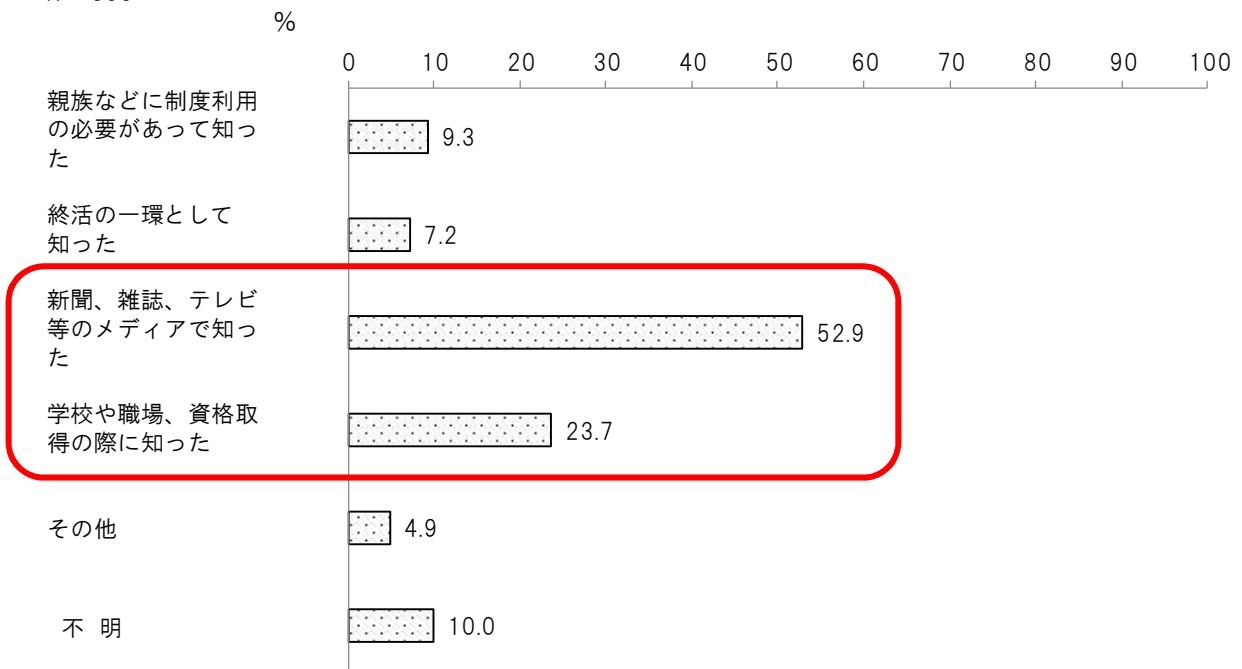
問 28_1 あなたが成年後見制度を知ったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)
 問 28_2 成年後見制度に関する情報をどこから得ましたか。(〇はいくつでも)

■成年後見者制度を知るきっかけとしては、「新聞、雑誌、テレビ等のメディア」が有力だが、制度の内容理解には、「説明会、講座、講演会等」が有力な情報源となっている。

- ・成年後見人制度を知ったきっかけについては、「新聞、雑誌、テレビ等のメディアで知った」との回答が52.9%と最も多く、次いで「学校や職場、資格取得の際に知った」(23.7%)と続いています。

【成年後見制度を知ったきっかけ】

N = 853



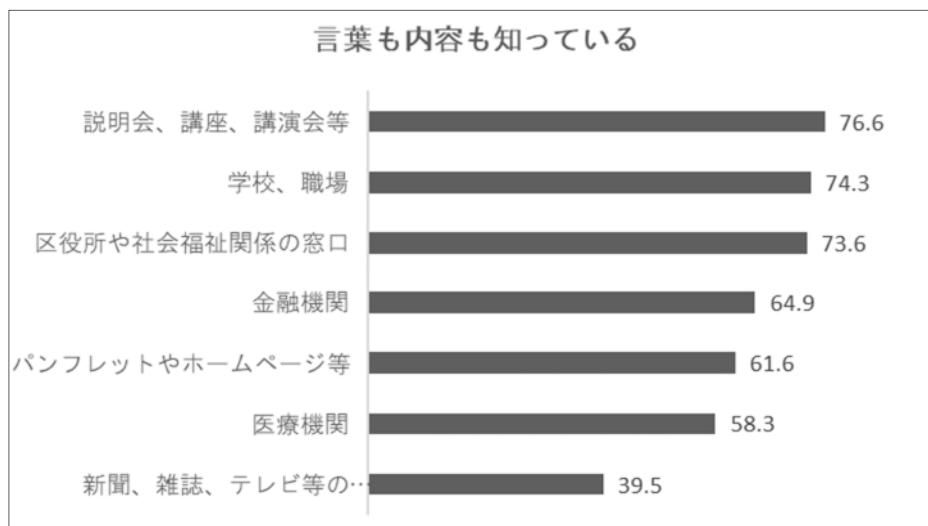
- きっかけごとに認知状況が異なります。具体的には、「新聞、雑誌、テレビ等のメディアで知った」は、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」、それ以外のきっかけは、「言葉も内容も知っている」が最も多くなっています。また、「言葉も内容も知っている」との回答のうち、きっかけとして「学校や職場、資格取得の際に知った」が77.7%と最も多くなっています。

【成年後見制度の認知度×成年後見制度を知ったきっかけ】

	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
学校や職場、資格取得の際に知った	77.7	22.3
親族などに制度利用の必要があつて知った	77.2	22.8
終活の一環として知った	59.0	41.0
新聞、雑誌、テレビ等のメディアで知った	39.5	60.5

- 「言葉も内容も知っている」との回答した方の情報の入手先は、「説明会、講座、講演会等」が76.6%と最も多くなっています。

【成年後見制度の認知度×成年後見制度の情報の入手先】



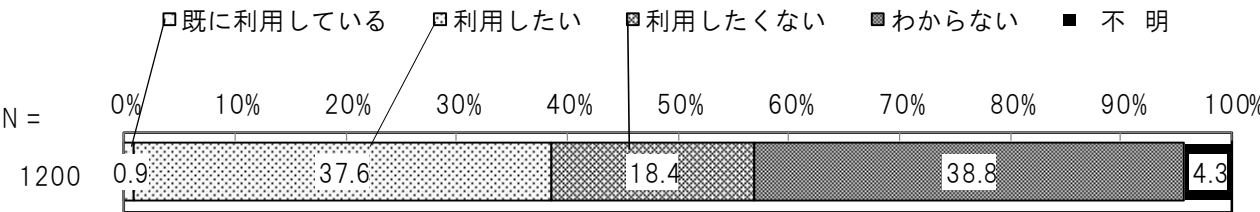
問 29 あなたや家族が認知症等により判断が十分にできなくなった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。（○は1つのみ）

■成年後見制度についてすでに利用している人は約1割、将来利用したいと考える人は約4割

■世帯年収が高くなるほど「既に利用している」方や「利用意向のある」方が多い傾向

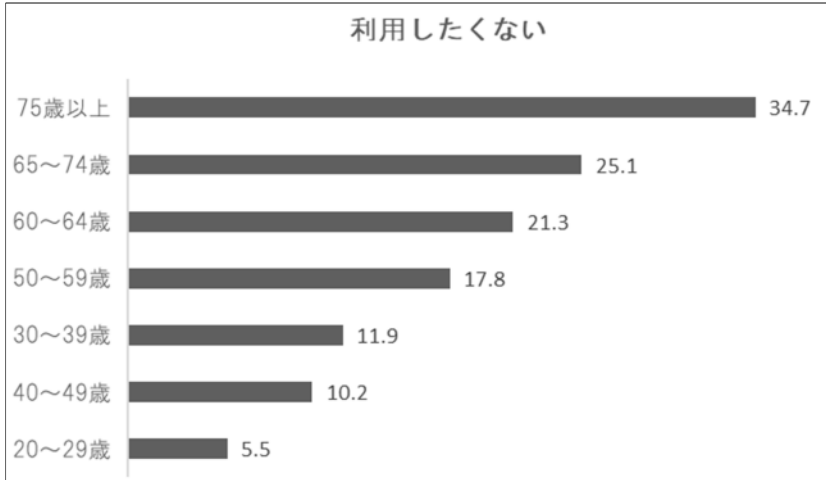
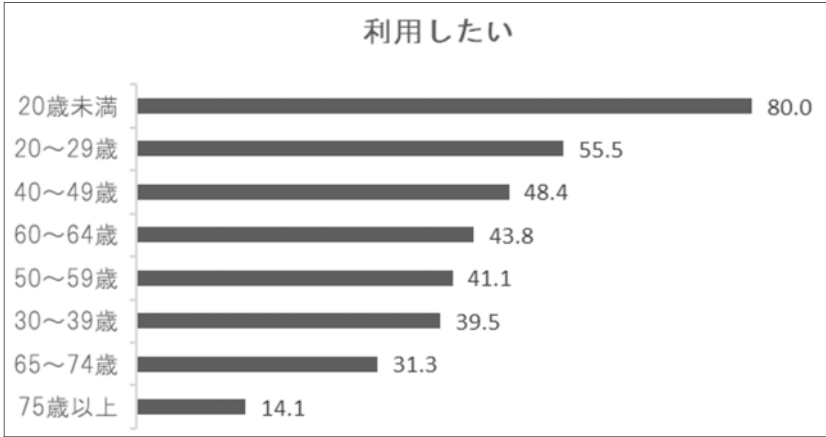
・成年後見人制度について、0.9 %の人が「すでに利用している」、37.6%の人が「利用したい」と回答しています。一方、18.4 %の人が「利用したくない」と回答しています。

【成年後見制度の利用意向】



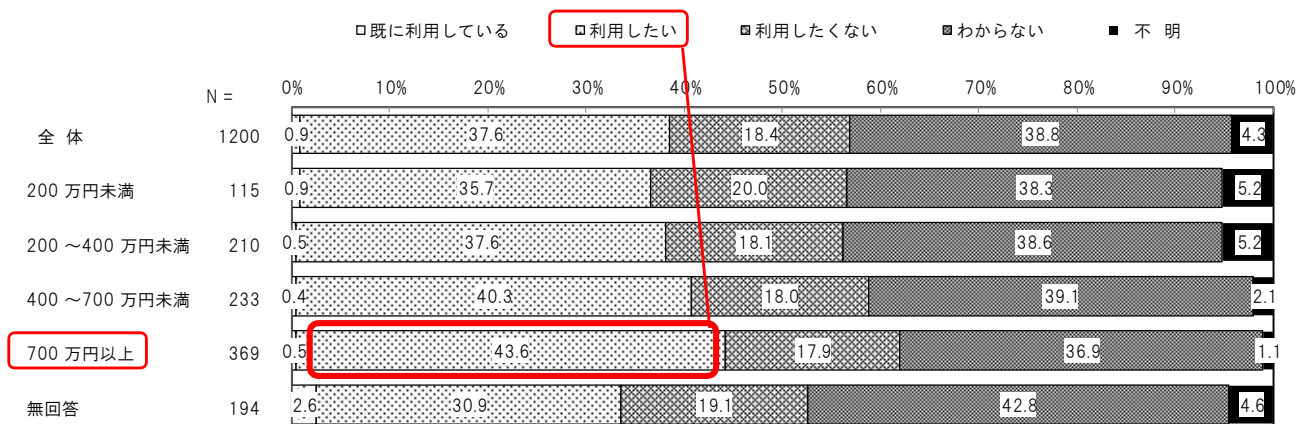
・年代別でみると、「利用したい」との回答は、「20歳未満」で80.0%と多く、次いで「20～29歳」(55.5%)と続いています。一方「利用したくない」との回答は、「75歳以上」で34.7%と多く、次いで「65～74歳」(25.1%)と続いています。

【成年後見制度の利用意向×年代】



- ・世帯年収別で見ると、「利用したい」と回答した方は、「700万円以上」で43.6%と多く、世帯年収が高いほど「利用したい」と回答する方が多くなっています。

【成年後見制度の利用意向×世帯年収】



■最終報告書に掲載予定のクロス集計設問一覧 (1/2)	
Q1 育児や介護	× Q32 自認する性
	× Q33 年齢
	× Q34 家族構成
	× Q2 仕事
	× Q5 暮らしの状況
	× Q6 暮らしの負担内容
	× Q8 相談できる人の有無
	× Q18 まちのバリアフリーの満足度
Q2 収入を得る仕事の有無	× Q33 年齢
	× Q38 世帯年収
	× Q2_2 就労意欲
	× Q5 暮らしの状況
	× Q6 暮らしの負担内容
	× Q11 地域活動への参加経験
	× Q11_2 地域活動への参加意向
Q2_1 離職理由	× Q33 年齢
Q2_2 就労意欲	× Q33 年齢
Q4 新型コロナウイルス感染症による困りごと	× Q33 年齢
Q5 暮らしの状況	× Q33 年齢
	× Q34 家族構成
	× Q37 住居の種類
	× Q38 世帯年収
	× Q10 手助けしていること
Q6 暮らしの負担内容	× Q33 年齢
	× Q34 家族構成
	× Q37 住居の種類
	× Q38 世帯年収
Q7 近所づきあいの程度	× Q33 年齢
	Q34 家族構成
	Q35 居住地域
	Q37 住居の種類
	Q14 災害発生時の避難
Q8 相談できる人の有無	× Q33 年齢
	× Q34 家族構成
	× Q35 居住地域
	× Q14 災害発生時の避難

■最終報告書に掲載予定のクロス集計設問一覧 (2/2)	
Q9 支え合いや助け合いの必要性	× Q33 年齢
	× Q35 居住地域
	× Q11 地域活動への参加経験
Q9_1 支え合いや助け合いに必要な取り組み	× Q11 地域活動への参加経験
Q9_2 支え合いや助け合いが必要ない理由	× Q11 地域活動への参加経験
Q10 手助けしていること	× Q11 地域活動への参加経験
Q11 地域活動への参加経験	× Q33 年齢
	× Q35 居住地域
	× Q37 住居の種類
	× Q15 災害時の手助けや対応
	× Q16 災害時に必要な備え
Q12 参加したい地域活動	× Q33 年齢
	× Q35 居住地域
Q15 災害時の手助けや対応	× Q11 地域活動への参加経験
Q17 外出頻度	× Q33 年齢
Q17_1 外出時に不便に思うこと	× Q33 年齢
Q22 区の福祉・健康に関する情報の入手先	× Q33 年齢
	× Q35 居住地域
	× Q37 住居の種類
Q23 区の相談窓口の満足度	× Q35 居住地域
Q24 区の各種相談窓口の周知度・相談経験・利用意向	× Q33 年齢
	× Q35 居住地域
Q25 シルバー人材センターが重点的に取り組むべき活動	× Q32 自認する性
	× Q33 年齢
	× Q34 家族構成
Q26 シルバー人材センターに入会したいと思う取り組み	× Q32 自認する性
	× Q33 年齢
	× Q34 家族構成
	× Q38 世帯年収
Q27 シルバー人材センターを利用して働きたい業務	× Q32 自認する性
	× Q33 年齢
	× Q34 家族構成
	× Q38 世帯年収
Q28 成年後見制度の認知度	× Q38 世帯年収
Q30 地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと	× Q33 年齢